

CODE 海外災害援助市民センター
2024 年度 事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

* 終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する。

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定 時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003 年	2024 年度末
	2	中国・四川省地震支援	2008 年	2025 年度末
	3	ウクライナ・ロシア避難民支援	2022 年	2025 年度末
	4	トルコ・シリア地震支援	2022 年	2025 年度末
	5	能登半島地震・豪雨支援	2024 年	2025 年度末
●新規プロジェクト	6	台風ヤギ支援	2024 年	2025 年度末
	7	チベット・シガツェ地震支援	2025 年	2025 年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者はのべ 550 世帯(2025 年 3 月末時点)。
実施内容	<p>●ぶどう畑再生支援事業</p> <p>*これまでの経緯</p> <p>イスラム主義勢力タリバンによって焼き払われたミールバチャコット地域のぶどう畑を再生するプロジェクトが 2003 年からスタートした。300 万円を原資に 288 世帯が参加し、現地の農家たちで作る「ぶどう生産者協同組合」が運営し、各村(4 村)から 1 名が選ばれる“コーポラティブシューラー”が管理してきた。この 20 年間で 550 世帯に増加した。</p> <p>2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、農家の方々に日本に招いて有機農業技術の研修を行った。日本で技術を学んだ農家たちは、その技術をアフガニスタンで活かしながら、日本の棚式のぶどう栽培を行い、収量が拡大し、同時に同地域に日本で学んだ有機農法を広めた。</p> <p>また 2013 年からは現地のレーズンを日本に輸入し、レーズンを通じてアフガニスタンの状</p>

況や文化など学ぶ機会(食と国際協力など)を提供してきた。これまでに 570 kgを輸入・販売した。

2003年からカウンターパートとしてお世話にいただいた Rさんが、2017年交通事故で逝去された。Rさんは、CODEと共にぶどう再生プロジェクトを行ってきた。Rさんが亡くなった後は、ご子息の Fさんが引き継ぎ、レーズンの輸出業務をサポートしていただいていた。

2021年8月15日、イスラム主義勢力タリバンはアフガニスタン全土を制圧し、「アフガニスタン・イスラム首長国」の樹立を宣言した。20年間駐留したアメリカ軍の撤退を機にタリバンが復権し、圧政を恐れ国外へと退避した人の数は12万人以上にのぼる。

日本にも約800名のアフガニスタン人が退避してきたが、大使館やJICAの職員のみに限られ、その家族の帯同は認められなかった。先述したFさん家族多数は国外退避を求め、CODEはFさんへの様々な情報の提供、関西NGO協議会を通じて外務省やJICAへの提言などを行ってきたが、彼らの退避は実現せず、いまだアフガニスタンに留まらざるを得ない状況にある。政変以降の治安の悪化などからFさんとの交信が途絶え、ぶどうプロジェクトの中止が余儀なくされた。

また、12月にアフガニスタンから神戸市内へ退避してきたSさんをサポートするFさん(アメリカ在住)を通じて、避難者受け入れの保証人Mさんを紹介していただいた。その後、Sさんにも「MOTTAINAI やさい便」【*1-(3)】参照を届け、時折アフガニスタンの状況をヒアリングしてきた。

レーズンの輸入・販売に関しては、2021年8月のタリバンによる全土制圧後、社会の関心が高まったことから、CODEの在庫10kgのレーズンがすぐに完売した。

2021年の政変以降、このぶどうプロジェクトは中断している。

2022年は、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きたことやアフガニスタン、ミャンマーでの政変やクーデターの状況を踏まえ、近畿ろうきん、関西NGO協議会との共催で「難民について考える 今世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか ～ウクライナ・アフガニスタン・ミャンマーから見える日本～」を2回シリーズで開催した。詳細は以下。

◎CODE 寺子屋 2022

「難民について考える 今世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか

～ウクライナ・アフガニスタン・ミャンマーから見える日本～」

・第1回「難民、避難民に対して市民・NGOは何ができるのか」

講師:折居徳正さん(パスウェイズ・ジャパン代表理事)

田中恵子さん(RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク共同代表)

日時:2022年8月7日(日)10:00～12:00

開催:対面(こうべまちづくり会館)とオンライン

参加者:58名(対面17名、オンライン41名)

・第2回「日本における難民の保護は適正か ～ウクライナ・アフガニスタン・

ミャンマーから見える日本の保護のあり方」

日時:2022年9月16日(金)18:00～20:00

	<p>開催:オンライン 参加者:37名</p> <p>2023年後半から現地のFさんと連絡が途絶えたことで安否が心配されたが、2024年に入ってからコンタクトが取れるようになり、今後のレーズン輸入販売の再開などについて協議を開始した。</p> <p>2024年度はアメリカ大統領による在アフガニスタンのアメリカのNGOへの資金停止などもあり、アフガニスタンの状況は厳しくなっている。現地カウンターパートのFさん自身もイランに退避した事や今後、家族を海外に呼び寄せる計画だそうで、実質的にアフガニスタンのプロジェクトを実施する事が難しくなった。よって、理事会での協議の結果、しばらくの間本事業を休止する事となった。</p> <p>◎2024年度の主な動き 3/20 アフガニスタンプロジェクトの講義(村井理事) (村井理事、玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村さん、山村)</p>
--	--

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト・新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震の被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	(四川大地震)四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民 (新型コロナウイルス感染症) 湖北省武漢市民やボランティア
実施内容	<p>* これまでの経緯</p> <p>◎四川大地震</p> <p>2008年の四川大地震直後からCODEはスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添い、被災者との関係を築いてきた。</p> <p>また、2011年、光明村の拠点「老年活動センター」を伝統木造構法で建設し、村民の祭りなどのイベントの会場として活用してきた。また、村民自身がセンターを活用し、農家楽(農家レストラン)として運営してきたが、2014年、村の書記・村長が退任したことや出稼ぎが増えたことから、センターが活用される機会が減っていった。</p> <p>2015年からは震災後につながった四川の「NGO 備災センター」の張国遠さんとの連携をより促進し、日中双方での学び合いの場を作ってきた。2015年からは、日中NGOボランティア研修交流事業(以下参照)を開始し、全5回で日本の大学生・高校生29名が四川省の被災地で学びを深めた。また、この事業がきっかけで2017年「中日減災・防災国際交流事業」が実現し、中国の学校関係者やNGOスタッフ23名が神戸で防災・減災の学びを深める機会を提供することができた。その後も、2018年、2019年の四川省での「中日安全技</p>

術研修」(参加者 25 名)では、大阪大学の渥美教授らと吉椿が講師を務めた。

2019 年には、台湾集集地震 20 周年で、台湾、四川、KOBÉ の三者交流を実施し、台北の国立政治大学で開催された国際シンポジウム「複合災害の協力におけるガバナンス」に張国遠さん、渥美教授、CODE 吉椿が参加した。その後も、台湾中部の埔里県の暨南大学で開催された国際シンポジウムにも張さんは登壇し、四川での取り組みの紹介や南投県桃米地区の復興の視察などを行った。

2020 年 1 月には「世界災害語り継ぎフォーラム」に CODE のカウンターパートのエコ・プラウトさん(インドネシア)と張国遠さん(中国四川)をお招きし、CODE 寺子屋特別編を開催し、共に学び合う場を設けた。

◎新型コロナウイルス感染症

2019 年 12 月、新型コロナウイルス感染症が最初に爆発的に感染の広がった湖北省武漢市(人口 1300 万人)は 76 日間ロックダウンした。これまで連携してきた張国遠さん(NGO 備災センター、新安世紀教育安全科技研究院)から CODE と渥美教授(大阪大学)に協力要請があったことから CODE の救援を開始した。張さんたちは、オンラインでボランティアを募り、取りこぼされる高齢者や障がい者、ホームレスを支える武漢の市民ボランティアを遠隔で支える仕組みを構築した。

3 月には張さん、渥美教授、CODE 吉椿が呼びかけ人となり、国際アライアンス「IACCR」を立ち上げ、台湾、中国、フィリピン、インドなど 14 の国と地域で民間の取り組みや経験などを共有する学び合いの場を 16 回開催し、CODE は IACCR 事務局の運営をサポートした。

2022 年度末時点で、中国を含めた世界の感染状況も落ち着いてきたことから本事業を終了し、「IACCR」は今後、通常の災害対応に切り替え、中国四川の NGO と連携していく。

◎日中 NGO ボランティア研修交流事業

2015 年から毎年、実施してきた日中 NGO ボランティア研修交流事業(未来基金事業の一環)は、日本の高校生や大学生が四川大地震の被災地を歩き、被災者や NGO と交流し学ぶ企画であるが、これまでに 5 回実施し、29 名が被災地の現場で学んだ。2019 年度からはコロナ禍のため休止している。2024 年度もコロナ禍の影響による政府の様々な規制などの理由で休止とした。

【2024 年度の主な動き】

2024 年度は、中国からの防災・減災の訪日団などとの研修や交流などを行った。

◎笹川日中友好基金 訪日団への講義

中国人民大学教授や中国災害防御協会事務局次長などへ日本の災害に関する講義を行った。

日時:2024 年 5 月 30 日

場所:New York Garden Place Hug (JR 六甲道駅)

内容:「災害教育」(室崎 CODE 代表理事)

「能登の高齢者の状況」(吉椿 CODE 事務局長)

	<p>◎中国災害防御協会 防災減災国際交流訪学団への講義・視察</p> <p>四川大地震以降、CODE と連携してきた張国遠さんが現在、働く中国災害防御協会の関係者 10 名が来日し、関西や能登を訪問し、講義や能登の被災地を案内した。今後、定期的に中国の防災関係者を連れて来日し、視察・研修を実施する計画。</p> <p>(以下、詳細)</p> <p>日時:2024 年 11 月 2 日～10 日</p> <p>訪問場所:関西、能登半島</p> <p>参加者:中国災害防御協会の会員である大学教授や地震局などの専門家 10 名</p> <p>【行程】</p> <p>11/2 日本到着</p> <p>11/3 室崎 CODE 代表の講義「日本の防災士と NGO」(コーディネート:島村さん) 人と防災未来センター訪問</p> <p>11/4 自由行動</p> <p>11/5 北淡震災記念公園を視察 大阪大学で講義(吉椿) 渥美公秀大阪大学教授「災害ボランティアの 30 年」 吉椿 CODE 事務局長「能登半島地震の課題と NGO の活動」</p> <p>11/6 能登半島地震の被災地視察(輪島)(渥美教授と吉椿が同行)</p> <p>11/7 能登半島地震の被災地視察(輪島)(渥美教授と吉椿が同行) 増島智子さん(被災地 NGO 協働センター)「能登半島の被災地の現状」 田中純一北陸学院大学教授「能登半島地震の現状と課題」</p> <p>11/8 福知山公立大学との交流</p> <p>11/9 京都市市民防災センター訪問</p> <p>11/10 帰国</p> <p>◎その他の動き</p> <p>5/2 四川大地震 16 年の共同通信の取材(吉椿)</p> <p>10/2 中国訪日団打ち合わせ(張国遠さん、渥美教授、吉椿)</p> <p>11/3 大阪で中国防災減災国際交流団へ講演(室崎代表理事、島村)</p> <p>11/5 大阪大学で中国防災減災国際交流団へ講演(吉椿、島村)</p> <p>11/6 共同通信の芹田記者、中国訪日団を取材(山村、吉椿)</p>
--	--

事業名	1-(3) ウクライナ・ロシア支援
実施日時	2022 年 2 月 24 日～継続中
実施場所	兵庫県神戸市内
受益対象者の 範囲及び予定 人数	兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち約 100 名

<p>実施内容</p>	<p>2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起き、3年以上を経た今も日本には2631人のウクライナからの避難者の方が在留している。(兵庫県内にはウクライナには102名 / 2024年6月末時点)。</p> <p>CODEは、ウクライナだけでなく、ロシアの状況も注視し、情報収集を行ってきた。淡路島に住むロシア人イリーナさんを通じて、神戸市内に避難してきたウクライナ人の避難者の方をご紹介いただき、2022年5月からは「MOTTAINAI やさい便」を直接ウクライナから避難してきた方々に届け始めた。2024年度は兵庫県国際交流協会のウクライナ避難民地域共創事業への助成金を活用し、本プロジェクトを行った。</p> <p>◎「MOTTAINAI やさい便」</p> <p>2022年5月から開始し、これまでに約250回の野菜を提供してきた。2023年12月までは週1回行われていたが、2024年1月～9月は能登半島地震の緊急救援のため休止、2024年9月からは月1回に減便し、やさい便を行っている。野菜を届ける際に避難者の方々とコミュニケーションを通じて見えてきたニーズに対応してきた。これまでに引越し7回、自転車提供3台、ミシン提供1台、家電設置や通訳、暖房器具提供、送迎などを行ってきた。</p> <p>2022年8月には神戸市内の公園でウクライナー日本交流会を開催し、72名(ウクライナ人42名、日本人30名)が参加し、BBQ、ゲーム、歌などで交流を行った。またその出会いがきっかけで丹波の有機農家のグループ「ムラとマチの奥丹波」の皆さんのご協力で9月に「稲刈り」にウクライナ人7名が参加した。</p> <p>11月には、チョ・ホンリさんの描いた戦争前のウクライナの風景を描いた「スケッチ展」をCODEと共同で開催し、ウクライナの避難民の状況も報告させていただいた。</p> <p>その他、この「MOTTAINAI やさい便」でクラウドファンディングを検討するための会議を2回開催したが、実施には至らなかった。</p> <p>2023年は、下記の「MOTTAINAI やさい便」は毎週1回、17世帯42名に配達をしてきたが、2024年1月に発生した能登半島地震が起きた事で休止状態になった。「子守りボランティア」は、ウクライナの対象世帯が帰国や多忙になった事で、夏より休止することとなった。「農業ボランティア」はウクライナのLさんが多忙になった事で同様に休止になった。また、5月7日には賛助会員の山本健一さんのご尽力で、ウクライナ避難民の方を対象に姫路市網干のみろく農園さんでイチゴ狩りを行った。ウクライナの7名とCODEの関係者5名も参加し、網干の方々と交流した。</p> <p>2024年9月からは、やさい便を再開し、現在、東灘区、長田区、須磨区、兵庫区、北区、西区、中央区の約29世帯に月1～2回程度新鮮な野菜を配達している</p> <p>◎「MOTTAINAI やさい便」の詳細</p> <p>○購入先:ムラとマチの奥丹波(丹波市)、ジコモファーム(丹波篠山市)、コープこうべみずほ協同農園(三木市)、元CODE理事村上さん(神戸市の西区)、の～ら(豊岡市)、とびまつ森の会(神戸市須磨区)、高木農園(神戸市北区)、その他、神戸市内やたつの市、長崎県島原市などの個人(竹内由美さん、旭芳郎さん、河崎紀子さんなど)</p>
-------------	---

- 提供先:子ども食堂(神戸市内2か所)、ベトナム寺院和楽寺(神戸市)、日越交流センター(神戸市)、在神戸のベトナム、ネパールなどの留学生・技能実習生(神戸市)、国際交流シェアハウスやどかり(神戸市)、藤家外国語学院(神戸市)、アフガニスタン退避者(神戸市)、ウクライナ避難者(神戸市)など
- 提供先の国籍:ベトナム、ネパール、ミャンマー、インドネシア、バングラデシュ、インド、中国、アフガニスタン、ウクライナ、モルドバ、ロシア、日本
- 配達:車両2台で村井理事(草地とし子さんが車輛とガソリン代を提供いただいている)と吉椿の2台で月に2回程度配達している。

◎農業ボランティア

一人のウクライナ避難者の声から、農業体験が始まった。元 CODE 理事の村上忠孝さんの西区の菜園にウクライナ人 L さんが、学生ボランティアと共に毎週、農業を体験し、L さんの生きがいの創出につながっている。2023年8月より休止。

◎子守りボランティア *2-(4)CODE 未来基金に再掲

2022年12月からは、ウクライナ避難者で母子家庭の母親たちのストレス軽減のために学生スタッフが中心となり「子守りボランティア」を開始した。これまでに約25名の高校生、大学生、社会人が参加し、5世帯の子守りを約40回行ってきた。2023年8月より休止になったが、ウクライナから日本に戻ってきた家族も出てきた事から2024年3月より再開した。なお、2024年度はのべ91名、計68回子守ボランティアが行われた。

◎地域住民との交流会

地域住民とウクライナ避難者の交流の機会を設けるため、2024年11月ウクライナ料理会(参加人数:ウクライナ8名、日本12名)、2025年1月ウクライナハンドクラフト会(参加人数:ウクライナ3名、日本15名)が行われた。参加者からは「身近にウクライナの方々に住んでいると知らなかった」「これからウクライナに関心を持ちたい」などの感想をいただいた。

◎能登半島地震ボランティア

1人のウクライナ避難者の声から、ウクライナの方々による令和6年(2024年)能登半島地震のボランティアを企画した。
2025年3月15日から18日までウクライナの2名と能登の被災地に行き、珠洲市三崎町、輪島市宅田町の仮設住宅の談話室にて交流会を開催した。参加したウクライナ避難者2名はウクライナ伝統料理「プリンツィ」を振舞い、一緒に歌を歌ったり等の交流の時間を過ごした。ウクライナのLさんは「戦争と災害は違うけれど、痛みは同じ」と感想を話されて、交流では涙を流される方もいた。

◎2024年度の主な動き

- 10/10 やさい便(草地さん、村井理事、吉椿)
- 11/15 やさい便(草地さん、村井理事、吉椿)

	<p>11/16 ウクライナ料理交流会（島村さん、植田さん、松尾さん、山村、吉椿）</p> <p>2025/1/27 ウクライナハンドクラフト交流会（山村、島村さん、那須さん、 施さん、田中さん）</p> <p>2025/2/14 やさい便（草地さん、村井理事、吉椿）</p> <p>2025/2/28 やさい便（草地さん、村井理事、吉椿）</p> <p>*子守りボランティアは毎週 1 回</p>
事業の目標と 終了予定時期	ウクライナの戦争が長期化の様相を呈し、日本に避難してきた人たちもしばらくは祖国に戻ることができないことを想定して、終了は一応 2023 年度末とする。

事業名	1-(4) トルコ・シリア地震支援
実施日時	2023 年 2 月 6 日～継続中
実施場所	トルコ共和国ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県など
受益対象者の 範囲及び予定 人数	仮設住宅に居住する被災者約 1000 人
実施内容	<p>2023 年 2 月 6 日、トルコ南東部を震源とする大地震が発生し、トルコとシリア両国で約 5 万 9000 人が亡くなった。約 250 km の東アナトリア断層が大きく動いた事で被害が広範囲にわたった。</p> <p>【地震の概要】</p> <p>日 時:2023 年 2 月 6 日(月)4:17(日本時間 10:17)</p> <p>震 源:トルコ東南部ガジアンテプ県ヌルダ郡東 26 km</p> <p>規 模:M7.9 深さ 17.9 km</p> <p>余 震:2/6 13:24(日本時間 19:24)に M7.5</p> <p>2/21 20 時すぎ M6.3 の余震が発生 *これまでに 1 万 1000 回以上の余震</p> <p>被災地:ハタイ県、ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県、 マラティア県、ディヤルバクル県、アダナ県など 11 県</p> <p>被 害:死者 5 万 8976 人、負傷者 11 万人以上(2023 年 4 月時点) (トルコ 5 万 500 人、シリア 8476 人)</p> <p>被災者 1560 万人(約 100 万人がテントや避難所で生活)</p> <p>倒壊家屋 約 34 万 5000 棟(トルコ国内)</p> <p>CODE は発災直後、コープこうべ河崎紀子さんから、トルコ・ネブシェヒル在住の日本語教師、藤本憲志さん(元コープこうべ職員)を紹介していただいたことや 1999 年のマルマラ海地震の際に通訳としてご協力いただいた岩城あすかさん(箕面市国際交流協会事務局次長)などのご縁から迅速な初動を行う事ができた。4 日後の 2/10 に事務局長の吉椿とインターンの植田隆誠さん(関西学院大学 3 年生)の 2 名を現地に派遣し、被災地の調査、被災者へのヒアリング、現地 NGO との協議を実施した。(第 1 次派遣)</p> <p>なお、この第 1 次派遣では、コープこうべハート基金から初動調査資金として 100 万を拠</p>

出していただいた。また、アウトドアブランド「モンベル」よりもテント、寝袋、防寒具などの救援物資も提供いただき、被災者へ配布した。

その後、第 2 次、第 3 次派遣では、現地の NGO、ACEV の「子どもと家族のケアセンター」を被災地の 3 か所(ヌルダ、アディヤマン、ハタイ)の仮設住宅村の中に建設するプロジェクト(建設費 2400 万円、運営費 2000 万円)に、CODE として建設費、運営費の一助として 500 万円を支援することを決定した。この「子どもと家族のケアセンター」では、被災した未就学児の子どもたちを保育し、トラウマを抱えた子どもやその家族のケアも行っている。11 月にトルコ・日本ユースボランティア企画(以下に詳細)で日本の学生たちがトルコを訪問した際にヌルダのケアセンターで「防災ダッグ」のワークショップで子どもたちや保育士たちと交流させていただいた。

第 4 次派遣では、政治的、宗教的な理由から支援から取りこぼされている最大の被災地のハタイ県を訪問した。筑波大学の木村周平教授より情報をいただき、ハタイの被災状況や 8 つの NGO の活動状況などを調査した。中でも、震災後に被災者自身が立ち上げた NGO「Dayanışma Gönüllüleri (ダヤニシマ ギョヌルレ: 連帯ボランティア)」の活動に注目した。この NGO は、震災直後に被災者自身が仮設住宅で共同生活をしながら立ち上げた団体で、救援物資の配布やコンテナ図書館で子どもたちへの学習指導、アスベストで汚染された水の浄化システムを作製し、きれいな水を地域住民に提供している。「一人ひとりがリーダーである。」という考え方をメンバーで共有しており、「自分たちの力を証明したい!」と被災者主体の理念を持っている。

CODE 理事会での協議を経て、ダヤニシマの自ら設立した共同組合の共有スペースの建設を計画しており、日本と耐震についても学びたいという事から、この NGO とハタイでの新たな支援プロジェクトを実施することとなった。建築家の北茂紀さんにもデザインなどの協力をいただいたが、フランスの建築財団の資金で共有スペースを建設することとなった。その後、フランスの財団は撤退した事でダヤニシマは事業を縮小して、CODE の資金で共有スペースを建設する事となった。

2025 年 2 月の第 6 次派遣では、2 年を経て NGO などの支援が減少しているハタイで新規プロジェクトの可能性を探った。調査研究でハタイに長期滞在している筑波大学大学院生の永田真子さんの協力の元、今もハタイで活動する NGO やそれを支える行政を訪問した。

中でも音楽家の女性一人で子どもたちの居場所作りに奔走している NGO(協同組合)「Hatay Ronya Sanat」の活動が突出しており、自ら資金獲得のためにチャリティーコンサートを開催するなどして、市から貸与している建物を使って「子どもライフステーション」を開設し、音楽や演劇などのアートを通じて被災者の子どもたちのケアを行っている。CODE は理事会の協議を経て、このステーションの教師 5 名の給与を 6 か月分拠出する事とした。4 月 27 日に「子どもライフステーション」の開所式が行われ、CODE のメッセージも代読された。

【第 1 次派遣の概要】

目的:復興支援に向けた初動調査、ヒアリング、防寒物資提供

日程:2023 年 2 月 10 日(金)~18 日(土)*現地滞在 6 日間

訪問地: ガジアンテプ県ガジアンテプ市、ヌルダ郡
カフラマンマラシュ県カフラマンマラシュ市
アディヤマン県

派遣者: 植田隆盛 (CODE インターン、関西学院大学 3 年生)
吉椿雅道 (CODE 事務局長)

協力者: 藤本憲志さん (ネブシェヒル大学日本語学科講師、元コープこうべ人事教育部)
ウムートさん (通訳: ネブシェヒル大学日本語学科 3 年生)
オーズハンさん (通訳: ネブシェヒル大学日本語学科 3 年生)
ハサンさん (NGO ACEV コーディネーター 99 年通訳 岩城さんの義弟)
メハメットさん (Active Participants Association メンバー)

内 容: 被害状況の調査、被災者へのヒアリング、救援物資 (モンベルの防寒具、雨具、テント、マットなど) の提供、現地 NGO やボランティア団体との協議など

その後、3/21 から第 2 次派遣として、事務局長の吉椿とインターンの島村優希さん (大阪大学 3 年生) の 2 名がトルコの被災地へ向い、その後被災地の状況調査や現地 NGO とのより具体的な支援プロジェクトの協議を行った。

【第 2 次派遣の概要】

目 的: 復興支援プロジェクトに向けた調査、現地 NGO との協議、被災者へのヒアリング、救援物資 (子ども服など) 提供、小学生のメッセージの伝達 (手紙、歌)

日 程: 2023 年 3 月 21 日 (火) ~ 31 日 (金) * 現地滞在 8 日間

訪問地: ガジアンテプ県ガジアンテプ市、ヌルダ郡、サクチャゴス町、エナテペ村
カフラマンマラシュ県カフラマンマラシュ市
アディヤマン県アディヤマン市

派遣者: 島村優希 (CODE インターン、大阪大学 3 年生)
吉椿雅道 (CODE 事務局長)

協力者: 藤本憲志さん (ネブシェヒル大学日本語学科講師、元コープこうべ人事教育部)
オズさん (通訳: アンカラ大学大学院生)
ハサンさん (NGO ACEV コーディネーター 99 年通訳 岩城さんの義弟)
メハメットさん (Active Participants Association メンバー)

内 容: 現地 NGO が建設する仮設住宅の状況を調査、現地 NGO とのプロジェクトの協議、中学校での災害に関する講義、ガジアンテプの NGO やボランティアたちとの意見交換会など

◎第 1 次派遣報告会の開催

日 時: 2023 年 2 月 26 日 (日) 14:00~16:30

場 所: 対面 (ふたば学舎)、オンライン

報告者: 植田隆誠 (CODE インターン)、吉椿雅道 (CODE 事務局長)

参加者: 対面 37 名、オンライン 88 名

主 催: CODE 海外災害援助市民センター

◎CODE 寺子屋特別編「被災地を知る～トルコ・シリア地震～」

日 時:2023年3月18日(土)13:30～15:30

場 所:兵庫区文化センター第三会議室

講 師:岩城あすかさん(箕面市国際交流協会)

参加者:15名

◎トルコ・シリア地震「被災地はいま」報告会

日 時:2023年3月24日(金)18:00～20:00(トルコ時間 12:00～14:00)

場 所:近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール

報告者:トルコより:島村優希(CODE 学生スタッフ)、吉椿雅道(CODE 事務局長)

会場から:植田隆誠(CODE 学生スタッフ)、山村太一(CODE 学生スタッフ)

参加者:68名オンライン(58名、対面10名)

主 催: CODE 海外災害援助市民センター

共 催: 近畿ろうきん、関西 NGO 協議会

◎第2次派遣報告会の開催

日 時:2023年4月15日(土)10:30～12:00

場 所:オンライン

報告者:島村優希(CODE インターン)、吉椿雅道(CODE 事務局長)

参加者:43名

主 催: CODE 海外災害援助市民センター

【第3次派遣の概要】

目 的: カウンターパート ACEV の建設した「子どもと家族のケアセンター」の視察、被災地の状況調査、被災者へのヒアリング、小学生のメッセージの配布など

日 程:2023年6月18日(日)～26日(月)*現地滞在6日間

訪問地:ガジアンテプ県ガジアンテプ市、ヌルダ郡

カフラマンマラシュ県カフラマンマラシュ市

アディヤマン県アディヤマン市、ハタイ県アンタキア市

派遣者:山村太一(CODE スタッフ)

吉椿雅道(CODE 事務局長)

協力者:藤本憲志さん(ネブシェヒル大学日本語学科講師、元コープこうべ人事教育部)

アジャルさん(通訳:チャナツカレ大学3年生)

ハサンさん(NGO ACEV コーディネーター 99年通訳 岩城さんの義弟)

メハメットさん(Active Participants Association メンバー)

内 容:「子どもと家族のケアセンター」(アディヤマン)の視察、センター長、保育士たち、センターに通っている子どもの父兄へのヒアリング

ハタイ県の調査、被災者へのヒアリング

◎第3次派遣報告会の開催

日 時:2023年7月11日(火)19:00~20:30

場 所:オンライン

報告者:山村太一(CODE インターン)、吉椿雅道(CODE 事務局長)

参加者:75名

主 催: CODE 海外災害援助市民センター

◎CODE 寺子屋特別編「被災地を知る～災害現場の実践を通して～」

* 1-(4)トルコ・シリア地震支援に再掲

日 時:2023年7月28日(金)18:00~19:30

場 所:CODE 事務所

講 師:藤本憲志さん(トルコ・ネブシェヒル大学日本語教師)

参加者:16名

【トルコ・日本ユースボランティア交流】

目 的: トルコの被災地に日本の若者が訪れ、トルコの学生とともに被災地にてボランティアを行うことで、お互いに災害が多い国の若者同士で学び合い、長期的なボランティアの在り方について考える。更にこの若者の交流を通して、より多くの日本とトルコの若者が被災地と継続的なつながりを形成する。

日 程:2023年10月19日(木)~26日(木)*現地滞在5日間

訪問地:ガジアンテプ県ガジアンテプ市、ヌルダ郡

カフラマンマラシュ県カフラマンマラシュ市

アディヤマン県アディヤマン市

参加者:植田隆誠(関西学院大学総合政策学部4年)

島村優希(大阪大学人間科学部4年)

那須公香(大阪大学外国語学部4年)

近藤明日花(関西学院大学人間福祉学部1年)

同行者:山村太一(CODE スタッフ)

吉椿雅道(CODE 事務局長)

協力者: Hasan(ハサン)Deniz

(NGO ACEV Mother Child Education Foundation ディレクター)

Gulsah(グルサ)(NGO ACEV ヌルダ子どもと家族のケアセンター所長)

Sih Mehmet(メハメット) Doğru

(NGO Active Participants Association メンバー)

藤本憲志(ネブシェヒル大学日本語教師)

Hasan Nusret(ヌスレット)Düşük(NGO İz Derneği メンバー)

Yusuf(ユスフ) Bolat(Collective Coordination Association(KKD)メンバー)

Buket(ブケット)Goncuoglu(ボアジチ大学日本語学生団体リーダー)など

通 訳:Basak(バシヤク)(ハタイ在住、元日本企業通訳)

Yusuf(ユスフ)(チャナッカレ大学3年生)

内 容: 中学校での防災ワークショップ、ボランティアや NGO との交流会、被災地の視察、現地 NGO の活動に同行、うちわに絵を描くワーク、大学生との防災ワークショップ

◎トルコ・日本ユースボランティア交流の報告会を開催

日 時: 2023年11月12日(日)10:00~12:00

場 所: オンライン(*報告者はコープこうべが会場)

報告者: 植田隆誠さん(関西学院大学総合政策学部4年)

島村優希さん(大阪大学人間科学部4年)

那須公香さん(大阪大学外国語学部4年)

近藤明日花さん(関西学院大学人間福祉学部1年)

山村太一(CODE スタッフ)

参加者: オンライン 70名

主 催: CODE 海外災害援助市民センター

【第4次派遣の概要】

目 的: 支援から取りこぼされている最大の被災地ハタイ県の被災状況と現地で今も活動している NGO たちの活動を知り、新たなプロジェクトの可能性を探る。

日 程: 2023年11月14日(火)~22日(水)*現地滞在6日間

訪問地: ハタイ県アンタキア、デフネ、サマンダー、イスケンデルンの被災地

派遣者: 山村太一(CODE スタッフ)

島村優希(CODE 学生スタッフ、大阪大学4年生)

*今回は、日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)

のサポートで同行

吉椿雅道(CODE 事務局長)

同行者: 荒井俊之さん(NHK フリーランス)

協力者: 藤本憲志さん(ネブシェヒル大学日本語学科講師)

木村周平さん(筑波大学人文社会系准教授)

永田真子さん(筑波大学国際日本研究学位プログラム博士後期課程1年)

エルタン・カラビイクさん(NGO Development Workshop)

トゥリン・ケシクタシュさん(NGO Hasat Hatay)

バシャク・チャクジュさん(通訳、元日本企業通訳)

メルベ・チャクナクさん(通訳、PWJのトルコ Project Officer)

内 容: ハタイ県の被災地の現状把握、現地 NGO の訪問とヒアリング、新規プロジェクトに向けての調査など

◎第4次派遣報告会の開催

日 時: 2023年12月5日(火)18:30~20:00

場 所: オンライン

報告者: 山村太一(CODE インターン)、島村優希さん(NVNAD による派遣)

	<p style="text-align: center;">吉椿雅道(CODE 事務局長)</p> <p>参加者: 20 名 主 催: CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>【第 5 次派遣の概要】</p> <p>目 的: 支援から取り残されている被災者たちの NGO との協働プロジェクトに ついでに調査と協議</p> <p>日 程: 2024 年 2 月 8 日(木)～15 日(木) * 現地滞在 3 日間 訪問地: トルコ・ハタイ県アンタキア、デフネ、サマンダー 派遣者: 吉椿雅道(CODE) 同行者: 荒井俊之さん(NHK フリーディレクター) 島村優希さん(大阪大学 4 年生、CODE 学生スタッフ) * 旅行中にトルコで合流 協力者: 藤本憲志さん(ネブシェヒル大学日本語学科講師、元コープこうべ職員) メルベさん(通訳、PWJ 現地プロジェクトマネージャー)</p> <p>内 容: 取り残された被災地であるハタイ県の 1 年後の状況を調査 現地 NGO を訪問し、今後のプロジェクトについての協議</p> <p>*2024 年度の活動</p> <p>【第 6 次派遣の概要】</p> <p>目 的: ① 発災から 2 年の被災地ハタイ県の現状の調査 ② 現行プロジェクト Dayanışma Gönülleri (連帯ボランティア) の進捗状況の調査 ③ 新規プロジェクトの調査(NGO などを訪問)</p> <p>日 程: 2025 年 1 月 31 日(金)～2 月 6 日(木) 訪問地: トルコ・ハタイ県アンタキア、デフネ、サマンダー 派遣者: 吉椿雅道(CODE) 協力者: 永田真子さん(筑波大学大学院博士課程) シャーヒーさん(ボランティア・NGO コーディネーター) Cansu さん(Hatay Ronya Sanat 代表)</p> <p>内 容: 取り残された被災地であるハタイ県の 2 年後の状況を調査 現地 NGO を訪問し、新規プロジェクトについての協議</p> <p>◎2024 年度の主な動き</p> <p>4/10 トルコ・シリア地震 PJ ミーティング (Serbay さん、Merve さん、北さん、村井理事 島村さん、山村、吉椿)</p> <p>5/24 FM 茨木放送で「トルコ・シリア地震」の報告(吉椿) トルコ地震プロジェクトミーティング (Serbay さん、Merve さん、北さん、村井理事、 島村さん、山村、吉椿)</p> <p>7/17 トルコ支援スタッフミーティング(村井理事、島村、山村、吉椿)</p> <p>2025 年 1/31-2/6 トルコ・シリア地震第 6 次派遣(吉椿)</p>
--	--

	2/7 第 6 次派遣事務局報告(村井理事、島村さん、吉椿、山村) 2/18 頼政さんトルコ・シリア地震のヒアリング(吉椿) 2/21 トルコとのオンラインミーティング(Cansu さん、永田さん、村井理事、山村、吉椿)
事業の目標と 終了予定時期	ハタイ県での新規プロジェクトが始まったばかりである事から、終了時期を一応 2025 年度末とする。

事業名	1-(5) 能登半島地震・豪雨
実施日時	2024 年 1 月 1 日～継続中
実施場所	石川県能登地方(七尾市中島町小牧、珠洲市、輪島市、穴水町など)
受益対象者の 範囲及び予定 人数	七尾市中島町小牧地区の被災住民約 200 人 珠洲市・輪島市の自主避難所や仮設住宅に居住する被災者、在宅被災は約 3000 人
実施内容	<p>2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分に石川県珠洲市を震源とした M7.4 の地震が発生し、能登半島の珠洲市、輪島市、能登町、七尾市などが甚大な被害を受けた。CODE は姉妹団体である被災地 NGO 協働センターや兵庫県防災士会と連携して、翌 2 日に七尾市中島町小牧の避難所「中島町コミュニティセンターに西岸分館」に食糧や燃料などの救援物資を提供した。その後も、同地区の集会所を拠点に被災地 NGO 協働センターのスタッフが常駐し、ボランティア受け入れ、足湯、家屋の片付け、物資配布、炊き出し、サロンなどのお茶会、地元住民との復興に向けた会議などの支援を展開している。</p> <p>足湯ボランティアは、山村を中心に「やさしや足湯隊」を結成し、大学生や社会人などのボランティアを中心に珠洲市、輪島市、穴水町、七尾市などで足湯ボランティアや物資の配布、ガレキの撤去などの活動を行ってきた。</p> <p>また、足湯ボランティアは、現地での実施だけではなく、一人ひとりの「つぶやき」から何が見えてくるのかなどの分析、また、足湯ボランティアにこれまでに参加したボランティアと話し合う機会も設けてきた。</p> <p>しかし、これから復興に向けて、ようやく動こうしてきた矢先に、2024 年 9 月 21 日に能登地方では秋雨前線や低気圧の影響で線状降水帯が発生し、輪島市や珠洲市が水害の被害を受けた。CODE は、姉妹団体である被災地 NGO 協働センターと連携して、様々なボランティア団体と水害に遭われた方のご自宅の片づけを行ってきた。「やさしや足湯隊」としても、仮設住宅から避難所に再び戻った方々に向けて、足湯ボランティアを実施した。</p> <p>二重被災をした地域や未だにライフラインが戻っていないので集落に帰れない地域、仮設住宅や在宅避難など中長期的な支援が今後も必要なことから、CODE としても引き続き被災地 NGO 協働センターと連携して能登半島地震の支援を行っていく。</p> <p>2024 年 2 月からは、スタッフの山村をリーダーとして、定期的に能登へと学生・若者ボランティアを派遣する「やさしや足湯隊」を形成し、現在も活動を継続している。「やさしや足湯隊」をきっかけに初めてボランティアに関わる学生も増えた。</p>

【能登半島地震の概要と被害】

日時:2024年(令和6年)1月1日(月)16時10分

震源:石川県珠洲市 深さ:16km

規模:M7.6 最大震度7

被害:(人的被害)死者592名(うち災害関連死364名)

(住宅被害)164,665棟(全壊6,520棟、半壊23,600棟)

避難者数:最大51,605名

【能登半島豪雨の概要と被害】

発生日時:2024年(令和6年)9月21日

能登地方では秋雨前線や低気圧の影響で21日朝から線状降水帯が発生。気象庁は輪島市や珠洲市、能登町に大雨特別警報を出した。輪島市では22日午後までの48時間で500ミリ前後という観測史上最大の雨量を記録した。

人的被害:死者17名

住宅被害:全壊106棟、床上浸水51棟、床下浸水771棟

仮設住宅の床上浸水 最大6団地222戸

避難者数:最大1,358名 停電:最大6,910戸 断水:最大5,216戸

土砂災害:267件 河川氾濫:28河川

◎やさしや足湯隊

CODE、被災地NGO協働センターが連携して、2024年2月に能登半島地震の支援としてスタッフの山村をリーダーに「やさしや足湯隊」を結成した。足湯ボランティアは、阪神・淡路大震災の際にKOBEで始まり、全国に広まった活動で、お湯に足をつけ、被災者の方の手を触れ、さすることにより様々なつづやきを聴く。

「やさしや足湯隊」の名前の由来は、「能登はやさしや土までも」という言葉から名付けられた。これは、人はもとより土までもやさしいという能登の風土を表していると同時に、能登の人は素朴で温かいという意味を表している

現在、30回の派遣を行い、活動日数は117日、参加人数はのべ284人、集めた「つづやき」は551にのぼる。これまでに足湯ボランティアを実施した場所は、珠洲市や輪島市、穴水町、七尾市の避難所や自主避難所、仮設住宅の集会所、地元のスーパーやガソリンスタンド、寺院でも行った。

【足湯ボランティアの派遣状況】

・先遣隊足湯ボランティア:2024年2月4日～7日

メンバー:山村、村井理事、学生3人の合計5人

場所:輪島 興善寺/輪島 正院小学校/輪島 師岡公民館

・第1次足湯ボランティア隊:2024年2月19日～22日

メンバー:山村、学生4人、社会人1人(兵庫県防災士会)の6人

場所:輪島高校/輪島 森本石油/七尾 小牧集会所/七尾 中島地区コミュニティセンタ

一西岸分館

- ・第2次足湯ボランティア隊:2024年2月26日～29日
メンバー:山村、学生4人、社会人2人(大阪ボランティア協会、兵庫県防災士会)の7人
場所:穴水 森本石油/穴水 さわやか交流館プルート七尾 小牧集会所/
七尾市中島地区コミュニティセンター西岸分館
- ・第3次足湯ボランティア隊:2024年3月5日～8日
メンバー:山村、村井理事、学生3人の5人
場所:珠洲市立直小学校/珠洲市立三崎中学校
- ・第4次足湯ボランティア隊:2024年3月13日～16日
メンバー:山村、島村さん、学生5人、社会人2人(兵庫県防災士会1人)の9人
場所:珠洲市立若山小学校/珠洲 大坊集会所/珠洲 塩津上野集会所
七尾 小牧集会所/七尾 中島地区コミュニティセンター西岸分館
- ・第5次足湯ボランティア隊:2024年3月22日～25日
メンバー:吉椿、植田さん、玉地さん、学生1人、社会人1人の5人
場所:珠洲市立直小学校/珠洲市立蛸島小学校
- ・第6次足湯ボランティア隊:2024年3月28日～31日
メンバー:山村、島村さん、村井理事、岩尾さん、学生4人、社会人2人の10人
場所:輪島 金蔵集会所/珠洲市立正院小学校穴水/さわやか交流館プルート/
穴水 森本石油/七尾総合市民体育館/珠洲塩津上野集会所
- ・第7次足湯ボランティア隊:2024年4月26日～29日
メンバー:山村、南さん、学生2人、社会人2人(大阪ボランティア協会1人)の6人
場所:輪島 北円山多目的集会所/穴水 さわやか交流館プルート
- ・第8次足湯ボランティア隊:2024年5月3日～6日
メンバー:吉椿、島村さん、玉地さん、岩尾さん、学生4人の8人
場所:輪島 鳳来保育園/珠洲市立みさき小学校 三崎町第一団地 談話室/穴水 前
音楽教室
- ・第9次足湯ボランティア隊:2024年5月31日～6月2日
メンバー:山村、村井理事、島村さん、南さん、学生2人、社会人2人の8人
場所:珠洲市立みさき小学校 三崎町第一団地 談話室
輪島 上大沢集会所

- ・第10次足湯ボランティア隊:2024年6月7日～9日
 メンバー:岩尾さん、玉地さん、南さん、安福さん、学生5人、社会人2人
 (近畿労働金庫、おたがいさまプロジェクト)の11人
 場所:七尾 中島町第1団地 仮設住宅/珠洲 三崎公民館
- ・第11次足湯ボランティア隊:2024年6月21日～23日
 メンバー:吉椿、山村、島村さん、南さん、学生5人、社会人1人の合計10人
 場所:珠洲市立みさき小学校 三崎町第一団地 談話室/穴水 前音楽教室/
 穴水 川島第二団地 集会所/穴水 大町団地 集会所
- ・第12次足湯ボランティア隊:2024年7月12日～15日
 メンバー:山村、村井理事、南さん、学生7人、社会人1人の11人
 場所:珠洲 三崎公民館/輪島 金蔵集会所/穴水 住吉公民館/輪島 上大沢集会所
- ・第13次足湯ボランティア隊:2024年7月26日～29日
 メンバー:山村、吉椿、村井理事、玉地さん、岩尾さん、学生4人、社会人3人
 の12人
 場所:珠洲市立みさき小学校三崎町第一団地 談話室/
 輪島 東大野第一団地 集会所/輪島 東大野第二団地 集会所/輪島 永福寺
- ・第14次足湯ボランティア隊:2024年8月1日～4日
 メンバー:吉椿、南さん、岩尾さん、学生4人、社会人1人(大阪ボランティア協会)、
 関西大学映像制作チーム6人の14人
 場所:珠洲市立みさき小学校 三崎町第一団地 談話室/穴水 前音楽教室/
 輪島 東大野第一団地 集会所/七尾市応急仮設住宅(中島中学校跡地)
- ・第15次足湯ボランティア隊:2024年8月9日～12日
 メンバー:山村、島村さん、玉地さん、学生5人、社会人5人(近畿労働金庫3人)
 の13人
 場所:珠洲市立みさき小学校 三崎町第一団地談話室/輪島 鳳来山永福寺/
 海臨山千手院/七尾サンライフプラザ
- ・第16次足湯ボランティア隊:2024年8月16日～19日
 メンバー:山村、吉椿、村井理事、学生8人、社会人2人の13人
 場所:穴水 七海屋/輪島 下唐川集会所/輪島 金蔵集会所/
 珠洲市立みさき小学校 三崎町第一団地談話室
- ・第17次足湯ボランティア隊:中止(台風のため)
- ・第18次足湯ボランティア隊:2024年9月3日～6日

	<p>メンバー:山村、吉椿、島村さん、玉地さん、村井理事、学生3人の8人 場所:輪島 宅田第一団地 集会所/輪島 東大野第一団地 集会所/穴水 七海屋/ 穴水 川島第二団地 集会所</p> <p>・第19次足湯ボランティア隊:2024年9月13日～16日 メンバー:村井理事、南さん、学生1人、社会人1人の4人 場所:輪島 町野町もとやスーパー/珠洲市馬縹町 自然休養村センター</p> <p>・第20次足湯ボランティア隊(第4次水害ボランティア):2024年10月11日～14日 メンバー:山村、島村さん、学生6人、社会人4人の12人 場所:輪島中学校</p> <p>・第21次足湯ボランティア隊(第5次水害ボランティア):2024年10月25日～28日 メンバー:吉椿、安福さん、学生3人、社会人3人の8人 場所:輪島中学校</p> <p>・第22次足湯ボランティア隊(第6次水害ボランティア):2024年11月1日～4日 メンバー:山村、玉地さん、学生2人、社会人4人の8人 場所:宅田第一団地 集会所/輪島中学校/大向邸/河原田公民館</p> <p>・第23次足湯ボランティア隊(第7次水害ボランティア):2024年11月8日～11日 メンバー:安福さん、学生3人、社会人2人の6人 場所:宅田第一団地集会所/輪島中学校</p> <p>・第24次足湯ボランティア隊:2024年12月6日～9日 メンバー:山村、島村さん、学生3人、社会人2人の7人 場所:宅田第一団地集会所/大屋小学校/七尾 小牧集会所</p> <p>・第25次足湯ボランティア隊:中止(雪のため)</p> <p>・第26次足湯ボランティア隊:2025年2月12日～15日 メンバー:安福さん、学生3人、社会人2人の10人 場所:宅田第一団地集会所/七尾 小牧集会所/七尾市総合体育館 集会所/ 大屋小学校</p> <p>・第27次足湯ボランティア隊:2025年3月4日～7日 メンバー:山村、玉地さん、村井理事、三宅さん、学生8人の12人 場所:宅田第一団地集会所/河原田公民館/稲屋仮設住宅輪島 大向邸/ 七尾 小牧集会所/七尾市総合体育館 集会所/金蔵集会所/もとやスーパー</p>
--	---

- ・第28次足湯ボランティア隊:2025年3月15日～18日
メンバー:吉椿、山村、島村さん、学生6人、社会2人グリコユニオン3人、
関西国際大学5人、ウクライナ避難民2人の21人
場所:三崎第一団地集会所/じんのび広場/七尾市総合体育館 集会所/
宅田第一団地集会所/港町団地 集会所/中島仮設住宅
 - 【水害(豪雨)ボランティア派遣の状況】
 - ・第1次水害ボランティア:2024年9月27日～29日
メンバー:社会人3人、学生1人、山村、吉椿の合計6人
場所:輪島市河井町
 - ・第2次水害ボランティア:2024年9月28日～29日
メンバー:社会人3人、学生2人、窪さん、岩尾さんの合計7人
場所:輪島市河井町
 - ・第3次水害ボランティア:2024年10月4日～6日
メンバー:社会人2人、学生2名、島村さん、吉椿、山村の合計7人
場所:輪島市河井町、鳳至町
 - ・第4次水害ボランティア(第20次足湯ボランティア隊):2024年10月11日～14日
メンバー:山村、島村さん、学生6人、社会人4人の12人
場所:輪島市河井町
 - ・第5次水害ボランティア(第21次足湯ボランティア隊):2024年10月25日～28日
メンバー:吉椿、安福さん、学生3人、社会人3人の8人
場所:輪島市河原田公民館
 - ・第6次水害ボランティア(第22次足湯ボランティア隊):2024年11月1日～4日
メンバー:山村、玉地さん、学生2人、社会人4人の8人
場所:輪島市河井町
 - ・第7次水害ボランティア(第23次足湯ボランティア隊):2024年11月8日～11日
メンバー:安福さん、学生3人、社会人2人の6人
場所:輪島市河井町
- ◎やさしや足湯隊 先遣隊報告会
日時:2024年2月16日(金)10:00～11:30
報告者:山口さん、糺川さん、村井理事、山村
開催:オンライン(ZOOM形式)
参加者:8人

主 催:被災地 NGO 協働センター、CODE 海外災害援助市民センター

◎やさしや足湯隊 報告 & 交流会

日 時:2024 年 3 月 19 日(火)10:00~11:30

報告者:富森さん、紺屋さん、竹口さん、楊さん、

開 催:オンライン(ZOOM 形式)

参加者:14 名

主 催:被災地 NGO 協働センター、CODE 海外災害援助市民センター

◎能登半島地震報告会

日 時:2024 年 5 月 26 日(日)14:00~17:00

場 所:兵庫県立大学 神戸防災キャンパス大教室

参加者:約 70 名(オンラインと対面の両方を含む)

報告者:頼政さん、村井理事、吉椿、山村、西井さん、

今井さん、岩尾さん、増田さん、玉地さん、

主 催:被災地 NGO 協働センター、CODE 海外災害援助市民センター

◎やさしや足湯隊交流会

日 時:2024 年 11 月 30 日(日)14:00~17:00

場 所:こうべまちづくり会館

参加者:約 30 名(オンラインと対面の両方を含む)

報告者:頼政さん、吉椿、島村さん、南さん、

主 催:被災地 NGO 協働センター、CODE 海外災害援助市民センター

◎つぶやきの分析

派遣回数	19 回
活動日数	77 日
参加人数(のべ)	171 人
新規参加人数	90
つぶやき数	392(男性 80、女性 294)

先遣隊から第 19 次足湯ボランティア隊で集まったつぶやきを質的量的の視点から分析を行い、学会で発表した。

対象者の性別は男性が 21.4%、女性が 78.6%と、女性が多い傾向となっている。また、対象者の年代は、70 代が 33%と最も多く、次いで 80 代以上、60 代が多くなっており、全体的に対象者の年齢層が高くなっている。

現在も第 19 次足湯ボランティア隊以降に集まった「つぶやき」や他団体が実施した足湯ボランティアの「つぶやき」も合わせて継続的に分析している。

◎寄付・助成金

<ul style="list-style-type: none"> ・大阪ガス 社会貢献プログラム「ソーシャルデザイン+」 内 容:大阪ガス会員 180 万人を対象にポイントを使って各プロジェクトを応援することができる。1 回 1 ポイント(1 口)から 100 ポイント(100 口)まで。 寄付金額:500,000 円 ・公益財団法人コープともしびボランティア振興財団 助成対象事業名「第 1 期 能登半島地震被災地支援助成事業」 助成決定額:300,000 円 ・寄付・会費決済サービス「コングラント」 GIVING100 by yogibo 「【能登半島地震支援】学生・若者による足湯ボランティアを応援して下さい！」 支援者:268 人 支援金額:2,169,000 円(目標金額 200 万円 達成率 108%)
復興にはまだ時間も要するが、一応の終了予定時期を 2025 年度末とする。

事業名	1-(6)台風ヤギ支援
実施日時	2024 年 9 月 17 日～
実施場所	ミャンマー
受益対象者の 範囲及び予定 人数	シヤン州南部のキャンプ T に居住する被災者 165 人(33 世帯)
実施内容	<p>2024 年 9 月 2 日にフィリピン東部で発生した台風ヤギ(11 号)は勢力を増して、中国、ベトナムに上陸し、タイ、ラオス、ミャンマーに被害を出した。東南アジア 6 か国で死者 745 人、行方不明者 153 人の甚大な被害を出した。中でも、ミャンマー(死者 384 人)、ベトナム(死者 291 人)の被害が深刻であった。</p> <p>CODE は、ミャンマーやベトナムなどの関係者とコンタクトを取り、情報収集及び発信を行ってきた。能登半島地震でもボランティアに来ていただいた NPO 法人 PEACE(東京)の宗田さんとの協議を行ってきた。その結果、被害の甚大であった少数民族(カレンニー)地域を現地の NGO「Phoenix Rehabilitation Center」の M さんを通じて支援することとなった。資金は、CODE の姉妹団体である被災地 NGO 協働センターと協働で 50 万円を PEACE に送金した。送金した資金で避難キャンプに住む被災者 33 世帯 135 人に対して、米、雨除けカバー、食用油など提供した。</p>

事業名	1-(7)チベット・シガツェ地震支援
-----	--------------------

実施日時	2024 年 1 月 7 日
実施場所	チベット自治区シガツェ市ティンリ県
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
実施内容	チベット自治区シガツェで M6.8 の地震が発生し、死者 126 人、負傷者 188 人、倒壊家屋 3600 棟の被害が出た。2008 年の四川大地震以来、連携している張国遠さん(中国災害防 御協会事務局長)と連絡を取り、現地の状況を収集・発信してきた。 報道が少なく、チベットという政治的に難しい地域での災害という事で寄付は非常に少な かったが、チベットの映画を撮ったこともある池谷薫監督が講演や上映会で積極的に寄付 を集めてくれた。

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の 範囲及び予定 人数	数名
実施内容	2024 年度の事務局は、スタッフの山村太一と学生スタッフの島村優希さん(大阪 大学大学院修士課程)、会計の細川裕子さん、村井(事務局担当)理事、事務局長の 吉椿で、トルコ・シリア地震やウクライナ避難民支援、能登半島地震やニューズレ ターの発行や報告会・イベント開催などの事務局業務を担ってきた。また、4 月から は、玉地紘樹さんと岩尾正貴さん(共に神戸学院大学 2 年生)の 2 名と 9 月からは 安福瑞希さん(神戸学院大学 3 年生)がインターンとして、CODE の業務や能登半島 地震支援の「やさしや足湯隊」の派遣リーダーを務めていただいた。

事業名	2-(2) NGO ことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や一般など
実施内容	2024 年度は、若者たちを対象に「能登半島地震の支援を通じた NGO の在り方」をテーマ に開催した。 ◎「NGO ことはじめ 2025」 日 時:2025 年 7 月 20 日(日)9:30~12:30 場 所:CODE 事務所

	講 師:村井雅清(CODE 理事) 参加者: 15 名
--	--------------------------------

事業名	2-(3)「〇〇と国際協力」
実施日時	毎月第3木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	一般
実施内容	<p>2014年3月より「食と国際協力」を月1回、第3木曜日に開催してきた。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらうという主旨で、2019年度までの7年間で計59回を開催し、のべ801名にご参加いただいた。</p> <p>2020年度からは「〇〇と国際協力」という形でリニューアルする事となり、以下の通り年1回のペースで実施した。2022年度は、「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業～」と題して若者を中心に開催した。詳細は以下の通り。</p> <p>第1回「映画と国際協力～台湾人のアイデンティティとは?～」 日 時:2020年8月20日 18:30～20:00 開 催:Zoomによるオンライン 語り手:宮本匠さん(CODE 副代表理事) 参加者:14名</p> <p>第2回「農業と国際協力～アフガニスタンからの贈り物 9.11をきっかけに始まった農業支援～」で講演(村井理事) 日 時:2021年9月9日 18:30～20:30 開 催:Zoomによるオンライン 語り手:村井雅清(CODE 理事) 参加者:23名</p> <p>◎2022年度 第3回「〇〇と国際協力」 「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業」 日 時:2022年11月14日(月)19:00～21:00 開 催:対面とオンライン 語り手 :杉田かなえさん(ジコモファーム代表) 森本莉永さん(豊岡市地域おこし協力隊、青年海外協力隊待機者) 参加者:13名</p>

* 2024 年度は、開催にいたらなかった。

事業名	2-(4) CODE 未来基金
実施日時	2014 年 12 月 10 日～
実施場所	各被災地や事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働くことをめざす若者、若干名。
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>2015 年に CODE が終了したプロジェクト経費の残額の半分(約 1000 万円)を充当し、CODE 未来基金を立ち上げ、次世代の NGO を担う若者たちを応援してきた。これまでに海外のフィールドワークでは、フィリピン、ネパール、中国の被災地に計 12 名を派遣した。インターンシップでは、これまでに 2 名(以下、未来基金の概要を参照)が半年間 CODE の業務に有給で従事した。</p> <p>2022 年度は、後期からインターン、アルバイトの学生スタッフ 3 名が、事務業務やウクライナ避難民支援(MOTTAINAI やさい便や子守りボランティアなど)を担っていただいたことで、学生ボランティアの CODE の活動への参加も増加した。</p> <p>2023 年度からは、新卒の山村太一を新たなスタッフとして迎え、島村優希さん(大阪大学 4 年生)、植田隆誠さん(関西学院大学 4 年生)の学生スタッフを中心に学生ボランティアたちなど未来基金の若者たちとトルコ・シリア地震やウクライナ避難民、能登半島地震支援などの活動を行った。</p> <p>ウクライナ・ロシア支援では学生を中心とした「子守ボランティア」を継続して行っており、母子のサポートかつボランティアを通じて平和や戦争について考える機会を提供している。トルコ・シリア地震ではトルコと日本の若者同士のオンライン交流、また 5 名の学生・若者自身でトルコでのフィールドワークを企画した。現地では防災ダックや防災クロスロード、日本から被災地へのメッセージ・イラストを描いた「うちわ」を通じた交流、またユースボランティア交流も行った。現地への派遣を通じて「関心を持ち続けること」や「つながり」の大切さなどの学びを得た。</p> <p>2024 年 1 月の能登半島地震支援ではスタッフの山村を中心に定期的に能登へと学生・若者ボランティアを派遣する「やさしや足湯隊」を形成し、2 月より活動を継続している。「やさしや足湯隊」をきっかけにボランティアに初めて関わる学生も増えた。</p> <p>また、4 月からは、玉地紘樹さんと岩尾正貴さん(共に神戸学院大学 2 年生)の 2 名と 9 月からは安福瑞希さん(神戸学院大学 3 年生)がインターンとして、CODE の業務や能登半島地震支援の「やさしや足湯隊」の派遣リーダーを務めていただき、若者たちが被災地で学ぶ機会を提供する事ができた。</p> <p>●「CODE 未来基金」の概要</p> <p>・主旨:NGO を志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。</p>

・助成内容:以下の 3 部門

1. インターンシップ・・・将来、CODE など災害 NGO で働きたい若者が CODE で有給インターンとして経験を積む機会を提供する。
2. フィールド研修・・・CODE の支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。
3. NGO セミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。

・基金の財源:CODE の過去のプロジェクト費の一部と寄付金を活用する。

CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。

・寄付について: * 一般寄付

個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円

* 未来基金サポーター

年会費:1,000 円

・運営・選考:CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の 4 名の理事および外部選考委員 2 名によって審査を行う。理事の交替などにより選考委員の構成が 2022 年 12 月度の理事会で議論され、以下の構成に再編された。

選考委員:芹田名誉理事、榛木理事、西海理事、宮本理事、の 4 人と外部委員は河崎紀子さん(兵庫県ユニセフ協会事務局長)、中山迅一さん(NPO 法人まなびと代表)から構成される。

●これまでの実績

* フィールドワーク事業

- ・第 1 号事業:神戸大学生(アイセック神戸大学委員会)による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016 年 3 月 30 日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。

日 時:2016 年 8 月 10 日～18 日(9 日間)

場 所:フィリピン・セブ島、バンタヤン島

企画者:宮津隆太(神戸大学 2 回生)

参加者:神戸大学生 5 名

(宮津隆太、河村陽菜、佐久間峻平、西本楓、羽田和真)

同行者:上野智彦(CODE スタッフ)

テーマ:「Sign～学生に国際支援の新たな兆しを～」

内 容:被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。

- ・第 2 号事業:兵庫県立大学の学生の企画によって CODE の支援するネパールグデ

ル村でフィールド研修が行われた。2016年9月12日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日 時:2017年2月22日～3月5日(12日間)

場 所:ネパール・ソルクンプ郡グデル村

企画者:立浪雅美(兵庫県立大学4回生)

参加者:兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の3名
(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)

同行者:吉椿雅道(CODE事務局長)

テーマ:「Discovery!～未来への可能性を広げよう～」

内 容:辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。

・第3号事業:神戸大学の学生の企画によってCODEの支援する中国四川省の光明村でフィールド研修が行われた。2017年10月3日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日 時:2018年3月22日～3月30日(8日間)

場 所:中国四川省の被災地(光明村など)

企画者:西本楓(神戸大学2回生)

参加者:神戸大学4名
(西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香)

同行者:吉椿雅道(CODE事務局長)

テーマ:「食による村おこし」

内 容:医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。

* インターンシップ事業

2016年度のネパールフィールド研修に参加した高橋大希さん(愛媛大学2年生)が未来基金インターンシップ第1号として申請し、2017年8月18日の選考委員会の協議を経て採択された。

・第1号

名前:高橋大希さん

所属:愛媛大学教育学部2年生

期間:2017年10月3日～2018年4月1日

業務:SNSを活用した広報や若者のネットワーク作り、イベントの運営
未来基金ニュース「だいき日記」の発信、第4回日中NGOボランティア研修交流事業に参加など。

・第2号

名前:立部知保里さん

所属：兵庫県立大学大学院減災・復興政策研究科博士課程

期間：2019 年 4 月 1 日～9 月 30 日（その後もアルバイトとして雇用）

業務：CODE レターの発行、会員管理、イベント運営、フィリピン・コロナ事業など

* セミナー事業

未来基金の若者たちが主体となって、以下のようなセミナーを開催してきた。

1. 阪神・淡路大震災 25 年特別企画

「若者の生き方を語る～阪神・淡路大震災 25 年を前に～」

* 第 1 回 「お金に依存しない自立した生活をめざして」

スピーカー：久保陽香さん（「非電化工房」住み込み弟子）

日時：2019 年 10 月 27 日

場所：神戸まちづくり会館

参加者：36 名

* 第 2 回 「学生のやりたいを見つける」

スピーカー：羽田和真さん（NPO 法人 The Peace Front）

日時：2019 年 11 月 22 日

場所：神戸まちづくり会館

参加者：22 名

* 第 3 回 「コミュニティナースが取り組む地域支援」

スピーカー：立浪雅美さん（「園田南」地域包括支援センター）

日時：2019 年 12 月 22 日

場所：神戸まちづくり会館

参加者：49 名

* 第 4 回 「昆虫食で世界の食システムに挑戦する」

スピーカー：西本楓さん（株式会社「BugMo」COO）

日時：2020 年 1 月 19 日

場所：神戸まちづくり会館

参加者：43 名

* 第 5 回 「若者の生き方について考える」

スピーカー：金益見さん（神戸学院大学講師）

日時：2020 年 2 月 9 日

場所：神戸まちづくり会館

参加者：58 名

◎CODE20 周年記念事業

CODE が、法人として再スタートをして 20 年を迎えた 2022 年度 3 月に記念事業として、以下を開催した。CODE が 20 年培ってきた経験と知恵に触れた若者たちが次の 20 年に向けて何を伝えるのかを 6 回のプレセッションを経て議論してきた。詳細は以下の通り。

* CODE20 周年記念事業

「20年先にあなたは何を伝えますか～若者と共に考える」

日時：2023年3月19日（日）14：00～16：30

開催：対面（こうべまちづくり会館）とオンライン

参加者：32名（うち若者10名）

***プレセッション**

第1回 テーマ「足元を見直す」

日 時：2022年11月25日（金）10:00～11:00

参加者：7人

第2回 テーマ「人々との接点」

日 時：2022年12月12日（月）12:00～13:00

参加者：9人

第3回 テーマ「タテ、ヨコ、ナナメの世代を超えたつながり」

日 時：2023年1月6日（金）10:00～12:00

参加者：6人

第4回 テーマ「希望」

日 時：2023年1月25日（水）10:00～12:00

参加者：7人

第5回 テーマ「20年先に何を伝えるのか」

日 時：2023年2月15日（水）16:00～18:00

参加者：6人

第6回 テーマ「本番のセッションに向けて」

日 時：2023年3月7日（火）16:00～18:00

参加者：9人

●2024年度の活動報告

スタッフの山村太一、学生スタッフ島村優希さん（大阪大学大学院修士課程）に加え、インターンとして4月から玉地紘樹さん（神戸学院大学2年生）、岩尾正貴さん（神戸学院大学2年生）、9月からは安福瑞希さん（神戸学院大学3年生）の3名が、CODE レターやイベントチラシの作成などの事務局業務を担っていただいた。また、能登半島地震支援（足湯ボランティア）、若者会議などをきっかけに多くの学生ボランティアの参加もあり、非常に活気づいた。

(1) ウクライナ避難民支援

「MOTTAINAI やさい便」の活動では野菜を届ける際に学生にも時々同行してもらうことで、ウクライナの方々と学生が直接関わることができる機会を設けてきた。2022年の11月からのウクライナ人女性の生きがい創りとして2023年6月まで、元CODE理事の村上忠孝さんにご協力いただき、毎週1回西区での農業体験に学生たちも同行し、共に農業を学んだ。

2022年12月から始まったウクライナの母子家庭で子育てや日本語学習などで自由な

時間が取れない母親のために「子守りボランティア」も学生企画の元で継続してきた。2023年8月に活動を休止していたが、新たに依頼を受けたご家庭やウクライナから再度避難されたご家庭も増えたことにより、2024年2月より再開し、2024年度も大学生を中心に毎週1回、1世帯の子守りボランティアを実施した。

やさい便は、2024年度前期は能登半島地震支援で休止にしていたが、2024年9月から再開し、2024年度末現在、東灘区、長田区、須磨区、兵庫区、北区、西区、中央区の約29世帯に月1～2回程度新鮮な野菜を配達しており、時々学生も同行している。

*1-(2)にも再掲

(2) NGO ことはじめ

2024年度の「NGO ことはじめ」は、学生インターンの玉地さん、岩尾さんの2名が企画・運営をし、以下の通り開催した。高校生、大学生が多く参加し、能登半島地震支援を通してNGOについて考える機会となった。

◎「NGO ことはじめ 2024」

日 時: 2024年7月20日(日)9:30～12:30

場 所: CODE 事務所

講 師: 村井雅清(CODE 理事)

参加者: 15名

(3) CODE 寺子屋

2024年度は、災害とも非常に関係の深い気候変動について改めて考えるために、気候変動の専門家の江守正多さんをゲストに近畿ろうきん、関西 NGO 協議会と共に開催した。2部のセッションでは江守さんと若者たちのトークディスカッションを行い、CODEから学生インターンの玉地紘樹さんが登壇した。以下、詳細。

◎CODE 寺子屋セミナー2025

*5-(1)、6-(4)にも再掲

「災害多発時代に今一度、気候変動を考える」

日 時: 2025年2月22日(土)13:30～16:00

場 所: 近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール

講 師: 江守正多さん(東京大学未来ビジョン研究センター副センター長・教授)

ディスカッション: 小林杏佳さん(緑の地球ネットワーク元インターン)

川邊菜帆心さん(関西 NGO 協議会インターン)

玉地紘樹さん(CODE 海外災害援助市民センターインターン)

ファシリテーター: 栗田佳典(関西 NGO 協議会事務局長)

参加者: 約40名

主 催: CODE 海外災害援助市民センター

共 催: 近畿労働金庫、関西 NGO 協議会

(4) 能登半島地震支援

2024年1月1日に発災した能登半島地震の支援として、CODEは被災地 NGO 協働セ

ンターと連携して「やさしや足湯隊」を結成し、2024年度は大学生を中心に足湯隊を20回派遣し、学生などの若者が被災地で直接学ぶ機会を提供してきた。

(5) 若者会議(阪神・淡路大震災30周年企画)

阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、若者主体で社会について議論し合う場「若者会議」を実施した。震災を経験していない1995年以降に生まれた人を「若者」と定義し、日々抱える不安・不満を若者同士で共有、解決していくとともに、社会の本来あるべき姿について考え続けていくことを目的としてこれまで4回の会議を行った。

4回目の本会議では、過去3回で話し合ってきた若者の不安や不満を大人と共有し、未来について一緒に考える「若者会議～若者×大人 意見交流会～」を実施した。詳細は以下の通り。

* 第1回目

日時:2024年11月12日(火)18:00～19:30

場所:CODE事務所

参加者:対面7名、オンライン2名

内容(不安・不満):

- ・活動に対する熱意の差に不満を感じる
- ・ボランティアに行くと意識が高いと言われ、不満を感じる
- ・NGOに就職を考えていても世間体や世間の目が気になる
- ・新しいことを始めようとすると上の世代が気になってしまう
- ・災害ボランティアは出口が見えないから入りづらい

* 第2回目

日時:2024年12月5日(木)18:00～19:30

場所:CODE事務所

参加者:対面6名

内容(不安・不満):

- ・やりたいことをやる難しさがある(金銭面・サポート面)
- ・NGOと行政の待遇の差に不満を感じる
- ・今の大人は社会の現状にあきらめをもっている

* 第3回目

日時:2024年12月15日(土)13:00～14:30

場所:CODE事務所

参加者:対面4名、オンライン2名

内容(不安・不満):

- ・社会に上手く馴染めない。居心地の悪さを感じる
- ・価値観が認められず、孤独感がある
- ・社会は簡単には変わらないというあきらめがある

* 第4回目「若者会議 ～若者×大人 意見交流会～」

日 時:2025年1月16日(土)18:00~20:30

場 所:中央区文化センター

参加者:対面 30名、オンライン3名(途中退出を含む)

(若者 16名、大人 17名)

内 容(不安・不満):

- ・自分にとっての価値観と他者から見た価値観の違いに困惑。
- ・学校や周りにある世間の目が気になる
- ・学校の給食の時間、学校での服装について疑問
- ・行政→仕組みから動いている。NPO/NGO→心や信念から動いている。

○議論内容(テーマ:世間の目)

- ・多様性を求めすぎる社会「みんな違ってどうでもいい」になっている
- ・大人も声を出す場所がない
- ・縦と横の関係だけでない斜め(NPO やボランティア)の関係の必要性
- ・小さな取り組みの積み重ねで社会は変わっていく
- ・安心安全な場づくりがこの社会には必要ではないか

(6)インターン発表会

2024年3月末をもって、岩尾正貴さん(神戸学院大学2年)と玉地紘樹さん(神戸学院大学2年)がCODE 学生インターンを卒業した。それに伴いインターン期間1年を振り返る会を開催した。能登半島地震支援活動をはじめウクライナ・ロシア支援の子守りボランティアや若者会議に携わった2名は、その経験から感じたことや抱いた疑問からCODEの理念や、NGOという存在、救援活動を見つめ直した。

日 時:2025年4月12日(土)14:00~16:00

場 所:こうべまちづくり会館

参加者:対面 28名、オンライン 1名

発表者:玉地紘樹さん(神戸学院大学2年)

岩尾正貴さん(神戸学院大学2年)

* 2024年度の若者たちの主な動き

- 4/8 玉地さん、岩尾さん、インターン申し込み(吉椿)
- 4/18 子守ボランティア説明会&交流会(近藤さん、岩尾さん、小向さん、島村さん)
- 5/17 MBSラジオ「ネットワーク1.17」に出演(南さん、山村)
- 6/6 近畿ろうきん寄付金贈呈式に出席(島村さん、吉椿)
- 6/10 コングラントとのミーティング(南さん、島村さん、山村)
- 6/24 コングラントとのミーティング(南さん、島村、山村)
- 6/25 兵庫県国際交流協会、ウクライナ避難民のヒアリング(山本さん、島村、山村、

吉椿)

- 6/28 能登半島地震「やさしや足湯隊」街頭募金(南さん、島村、山村、吉椿)
- 6/29 能登半島地震「やさしや足湯隊」街頭募金(南さん、山村、吉椿)
- 7/5 ウクライナ助成金ミーティング(島村、山村)
- 7/20 NG ことはじめを開催(村井理事、玉地さん、岩尾さん、南さん、勝沼さん、山本さん、上野さん、西岡さん、河野さん、橋本さん、杉浦さん、小篠さん、島村さん、山村、吉椿)
- 7/25 ウクライナ避難民勉強会(玉地さん、岩尾さん、西岡さん、那須さん、西受さん、田代さん、吉永さん、島村、山村、吉椿)
- 8/14 「復興の灯」キャンドルナイトスカイランタンに参加(島村、山村)
- 8/20 安福さんインターン申し込み(吉椿)
- 8/30 関西NGO協議会との交流会(玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、山村)
- 9/18-22 お熊甲祭り(七尾市中島町)に参加(安福さん、玉地さん、岩尾さん、島村さん、山村、吉椿)
- 10/17 関西 NGO 協議会ユース交流事業(玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村さん、山村、吉椿)
- 11/2 第1回若者会議(岩尾さん、玉地さん、安福さん、島村さん、村井理事、山村、吉椿)
- 11/15 神戸女学院大学松尾さん来所(吉椿)
小牧、加賀さん交流会(玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、吉椿)
- 11/16 ウクライナ料理会(島村、植田さん、松尾さん、山村、吉椿)
- 11/21 振り返り(岩尾さん、玉地さん、安福さん、島村さん、村井理事、吉椿、山村)
- 11/23-24 伝承合宿で講演(村井理事)
伝承合宿に参加(玉地さん、安福さん、山村、吉椿)
- 11/30 やさしや足湯隊交流会を開催(玉地さん、岩尾さん、安福さん、南さん、頼政さん、島村さん、村井理事、山村、吉椿)
- 12/5 第2回若者会議(岩尾さん、玉地さん、安福さん、島村さん、村井理事、山村、吉椿)
- 12/15 第3回若者会議(岩尾さん、玉地さん、安福さん、村井理事、山村、吉椿)
- 12/22 ワンワールドフェスティバル for YOUTH でブース出展
(玉地さん、安福さん、山村、吉椿)
- 12/29 震災30年若者会議番外編を開催(玉地さん、岩尾さん、安福さん、植田さん、島村さん、村井理事、山村、吉椿)
- 2025/1/1 MBS ラジオ「ネットワーク1・17」に出演(南さん、山村)
- 1/12 「阪神・淡路大震災30年防災・現在チャリティーイベント～tsunagu(ツナグ)～」
(玉地さん、安福さん、岩尾さん、島村さん、山村)
- 1/16 第4回若者会議「若者会議～若者×大人 意見交流会～」
(岩尾さん、玉地さん、安福さん、島村さん、村井理事、山村、吉椿)
- 1/17 ひょうご安全の日のつどいでブース出展(島村さん、南さん、山村、吉椿)
- 1/23 「CSO ゆるやかなネットワークをつくる会 in 関西」で講演(島村さん、山村)

	<p>1/27 まちライブラリーみなとじまにて「ウクライナハンドクラフト交流会」を開催 (施さん、田中さん、那須さん、島村さん、山村)</p> <p>2/22 CODE 寺子屋セミナー2024 を開催(玉地さん、室崎代表、岩尾さん、 島村さん、山村、吉椿)</p> <p>3/1 「凧が灯るころに」上映会に出席(島村さん、山村)</p> <p>3/4 神港橋高校タウンミーティングで講演(安福さん、吉椿)</p> <p>3/8 神戸市危機管理室「RE:KOBE」に登壇(玉地さん)、参加(吉椿)</p> <p>3/10 若者会議振り返り(岩尾さん、玉地さん、安福さん、島村さん、村井理事、 山村、吉椿) スタッフ向け安全研修(玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村さん、山村、吉椿)</p> <p>3/15 FM ワイワイ出演(岩尾さん、玉地さん、安福さん)</p> <p>3/18 映画「港に灯がともる」上映&トークショーに登壇(吉椿) 参加(岩尾さん、安福さん)</p> <p>3/21 神戸新聞取材(岩尾さん、玉地さん、安福さん)</p> <p>4/12 インターン発表会(玉地さん、岩尾さん、安福さん、室崎代表、村井理事)</p>
--	---

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクトをよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトなどで発信してきた。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(社会防災特別講義Ⅱ) * 2024 年度から名称が「テーマ型実習 C」に変更
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第 3 限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の 範囲及び予定 人数	現代社会学部の学生 20 名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業および講師派遣 村井理事が 2007 年から担っていた本講義を 2020 年度から吉椿が担っており、2022 年度も以下の内容と講師陣とオムニバスで全 15 コマ実施した。講師は、他に斉藤容子さん、

<p>頼政良太さんにも担っていただいている。2024 年度から名称が「テーマ型実習 C」に変更になった。</p> <p>《日程と内容》</p> <p>9/24(火) 第 1 回 ガイダンス「世界の災害」(吉椿)</p> <p>10/1(火) 第 2 回 NGO とボランティア(吉椿)</p> <p>10/8(火) 第 3 回 日本の災害 NGO とボランティア(頼政さん)</p> <p>10/15(火) 第 4 回 海外の NGO 活動(吉椿)</p> <p>10/22(火) 第 5 回 市民社会と NGO(吉椿)</p> <p>10/29(火) 第 6 回 現代社会とジェンダー(斉藤さん)</p> <p>11/5(火) 第 7 回 緊急支援から復興・防災へ(頼政さん)</p> <p>11/12(火) 第 8 回 コミュニティ防災(斉藤さん)</p> <p>11/19(火) 第 9 回 災害とフィールドワーク(吉椿)</p> <p>11/26(火) 第 10 回 NGO を作るワーク①(吉椿)</p> <p>12/3(火) 第 11 回 NGO を作るワーク②(頼政さん)</p> <p>12/10(火) 第 12 回 NGO を作るワーク③(吉椿)</p> <p>12/17(火) 第 13 回 NGO を作るワーク④(斉藤さん)</p> <p>12/24(火) 第 14 回 NGO を作るワーク⑤(吉椿)</p> <p>1/7(火) 第 15 回 ポスターセッション(吉椿)</p> <p>その他、社会貢献学入門の講義(2 回)の講義では、神戸学院大学、工学院大学、東北福祉大学の 3 大学連携で履修者 260 名に講義した。</p> <p>7/13(土) 第 14 回 NGO による国際協力/CODE の行う社会貢献(吉椿)</p> <p>7/20(土) 第 15 回 NGO による国際協力/海外での復興支援活動(吉椿)</p>

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 親和大学(国際ボランティア論) * 2023 年度から親和女子大学が共学になり、親和大学に名称変更
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週月曜日第 2 限
実施場所	親和大学キャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の 範囲及び予定 人数	文学部国際文化学科、発達教育学部児童教育学科・心理学科、教育学部スポーツ教育学科の 111 名。中国、ネパール、ベトナム、バングラデシュ、スリランカなどの留学生も多数在籍
実施内容	2020 年度前期(月曜 2 限、全 15 回)より「国際ボランティア論」の講義((担当教員: 梶山)を行うことになった。講師は、坂西卓郎さん(PHD 協会)(5)、斉藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で実施した。
	《内容》
	4/8(月) 第 1 回 ガイダンス・授業の進め方(梁さん)
	4/15(月) 第 2 回 国際協力概論(坂西さん)

4/22(月)	第 3 回	ボランティアとは？(吉椿)
4/29(月)	第 4 回	世界の難民問題(坂西さん)
5/6(月)	第 5 回	日本の難民問題(坂西さん)
5/13(月)	第 6 回	国際協力と多文化共生①(坂西さん)
5/20(月)	第 7 回	国際協力と多文化共生②(坂西さん)
5/27(月)	第 8 回	防災と国際協力(斉藤さん)
6/3(月)	第 9 回	緊急支援、復興支援(斉藤さん)
6/10(月)	第 10 回	ジェンダー視点から見る途上国災害(斉藤さん)
6/17(月)	第 11 回	異文化理解と援助(吉椿)
6/24(月)	第 12 回	NGO とは？(吉椿)
7/1(月)	第 13 回	国際協力と若者(吉椿)
7/8(月)	第 14 回	SDGsと災害(吉椿)
7/22(月)	第 15 回	ボランティアから専門家へ(斉藤さん)

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週火曜日第 1 限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の 範囲及び予定 人数	現代社会学部の学生 29 名
実施内容	<p>2020 年度より CODE が受託した講義で、前期(火曜 1 限、全 15 回)の「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が行った。ゲストスピーカーとして、斉藤容子さんにも講義を担っていただいた。</p> <p>《内容》</p> <p>4/9(火) 第 1 回 ガイダンス(吉椿)</p> <p>4/16(火) 第 2 回 災害ボランティアについて(吉椿)</p> <p>4/23(火) 第 3 回 災害ボランティアセンターについて(吉椿)</p> <p>5/7(火) 第 4 回 避難所運営とボランティア(斉藤さん)</p> <p>5/14(火) 第 5 回 避難所ワーク「HUG」(斉藤さん)</p> <p>5/21(火) 第 6 回 復興支援とボランティア(吉椿)</p> <p>5/28(火) 第 7 回 足湯ボランティアとは(吉椿)</p> <p>6/4(火) 第 8 回 災害ボランティアのネットワーク(吉椿)</p> <p>6/11(火) 第 9 回 ボランティアとフィールドワーク(吉椿)</p> <p>6/18(火) 第 10 回 海外のボランティア①フィリピン (吉椿)</p> <p>6/25(火) 第 11 回 海外のボランティア②イタリア (斉藤さん)</p> <p>7/2(火) 第 12 回 海外のボランティア③中国 (吉椿)</p> <p>7/9(火) 第 13 回 ボランティアと若者・働き方(吉椿)</p> <p>7/16(火) 第 14 回 災害とジェンダー(斉藤さん)</p>

	7/23(火) 第 15 回 NGO とボランティア(吉椿)
事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
実施内容	<p>例年通り、以下の事業などに講師派遣をした。</p> <p>①講師派遣</p> <p>2025/1/8 龍谷大学国際 NGO 論「最後の一人まで～ 災害支援の現場から考える市民社会」で講義(吉椿)</p> <p>2025/1/23 第 2 回 CSO ゆるやかなネットワーク「CODE について」で講義 (島村さん、山村)</p>

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
	<p>① 関西 NGO 協議会(KNC)の活動への参加</p> <p>CODE は団体理事として、吉椿が 2017 年度から理事会に出席している。 なお、吉椿は、2019 年度から常任理事、2020 年度からは NGO-JICA 協議会コーディネーターを担ったが、2021 年度でコーディネーターを辞任し、自団体業務に選任することとした。また、2018 年から KANSAI-SDGs市民アジェンダ分科会の座長としても、SDGsを通じて関西の多分野の NGO との関係を深めてきた。また、JICA 関西と KNC で関西 NGO-JICA 協議会を吉椿が担当し、関西の NGO にかかわるユースと JICA のユースの交流促進にも努めた。</p> <p>* 総会・理事会への出席</p> <p>5/1(日) 第 1 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>5/11(土) 2024 年度総会に出席(山村)</p> <p>7/11(日) 第 2 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>9/6(金) 常任理事会に出席(吉椿)</p> <p>9/30(木) 第 3 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>1/28(月) 第 4 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>4/3(木) 第 5 回理事会に出席(吉椿)</p>

* NGO-JICA 協議会

2020年度より吉椿がKNCとしてコーディネーターを担っていきだが、2021年度末で辞任した。2024年度の業務は以下の通り

- 9/10 第1回 NGO-JICA 協議会に出席(吉椿)
3/11 第2回 NGO-JICA 協議会に出席(吉椿)

* 関西 NGO-JICA 協議会

2022年度からは、栗田 KNC 事務局長と共に JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の業務を担っている。2024年度は会の実施にいたらなかった。

* KANSAI-SDGs市民アジェンダ

2018年から関西地域の NGO たちと SDGs推進のために市民社会に声を聴く分科会を開催してきた。吉椿は、三輪敦子さんと共に国際分科会の座長を務めてきた。2020年より運営委員会という名称になった。

* KNC へのスタッフの出向

KNC 事務局の業務サポートとして、若者たちが国際協力ネットワーク NGO の実務を学ぶために、CODE のスタッフの山村と島村さんが交代で週1回、KNC 事務局に出向した。

- 12/3 島村さん、12/10 島村さん、12/17 山村、12/24 山村、1/7 山村、
1/14 山村、1/21 山村、1/28 島村さん、2/4 島村さん、2/18 島村さん、
2/25 山村、3/4 島村さん、3/11 山村、3/21 島村さん

* その他

- 8/30 第2回「国際協力に関心があるユースメンバー交流会」(KNC 主催)

オンラインで交流(島村さん、山村)

- 10/17 「グローバルな社会課題への探究機会と課題解決のためのユースチーム

の組織化」事業で講義(安福さん、岩尾さん、島村さん、山村、吉椿)

- 11/25 関西 NGO 協議会職員面接(吉椿)

- 1/8 龍谷大学国際 NGO 論で講義(吉椿)

- 1/23 第2回 CSO ゆるやかなネットワーク「CODE について」で講義

(島村さん、山村)

(参加者9名)

- 12/22 ワンワールドフェスティバル for YOUTH でブース出展

(玉地さん、安福さん、山村、吉椿)

- 12/23 関西 NGO 協議会「CSO のゆるやかなネットワークを作る会 in 関西」

に出席(山村、吉椿)

② コープこうべとの連携

例年通り、コープこうべが実施している地区の勉強会や報告会への講師派遣を継続した。2024年度は、能登半島地震支援の「やさしや足湯隊」の活動に対して、コープともしびボランティア振興財団の「やさしさにありがとうひょうごプロジェクト」の助成金を活用させていただいた。また、能登半島豪雨の際の冬用衣料、ウクライナ避難民へのお米の提供などもいただいた。

* 2024年度の主な動き

6/11 コープこうべ総代会に出席(吉椿)

9/24 フードドライブ譲渡会&交流会に参加(山村)

10/24 2024年度兵庫県生活協同組合大会(安田菜津紀さん)に出席(吉椿)

12/6 コープこうべの関西学院大学社会福祉学部社会起業特論Cで講義(吉椿)

③ 近畿ろうきんとの連携

2018年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」(預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ)の寄付先団体として選出され、約20万円の寄付をいただいている。2019年度、CODEは近畿ろうきんに預金口座を開設した。

2024年度の笑顔プラスの寄付は、ゼロ金利が解消されたことで金利が増え、多くの方が社会貢献預金に賛同し、寄付額877,549円と大幅に増額された。

また、能登半島地震支援でも、近畿ろうきんや全労金の職員の方々が4回、のべ11人が能登半島地震のボランティアに参加していただいた。

* 能登半島地震・豪雨ボランティアの参加状況

・6/7～9 第10次足湯ボランティア 1人

・8/9～12 第15次足湯ボランティア 3人

・10/4～6 第3次水害ボランティア 4人

・10/11～14 第20次足湯ボランティア 3人 合計:11人

*全労金の職員は、被災地NGO協働センターの拠点、小牧集会所で複数回、ボランティアに参加している。

また、2019年からは、毎年、近畿ろうきんから協賛をいただき、以下のセミナーを開催してきた。

2019年度「若者生き方を語る～阪神・淡路大震災から25年を前に～」

2020年度「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・災害/気候変動」

2021年度「若者と難民について考える」

2022年度「若者と難民について考える第2弾」(2回シリーズ)

2023年度「災害・紛争、混とんとした時代に私たちはどんな未来を選ぶのか」

* 2025年度は以下の通り

©CODE 寺子屋セミナー2025

* 5-(1)にも掲

- 10/4 鷹匠中学校「地域とつながる授業」の発表会に出席(吉椿)
- 11/3 大阪大学で中国防災減災国際交流団へ講演(室崎代表理事、島村さん)
- 11/5 大阪大学で中国防災減災国際交流団へ講演(吉椿、島村さん)
- 11/5-7 中国防災減災国際交流団のアテンド(渥美教授、吉椿)
田中純一北陸学院大学教授が中国防災減災国際交流団へ講義(金沢)
- 11/8-10 日本災害復興学会 2024 度長岡大会に出席(島村さん、山村、吉椿)
- 11/15 神戸女学院大学松尾さん来所(吉椿)
- 11/29 舞子高校「災害と人間」で講義(吉椿)
- 12/12-13 東京大学教養学部「災害復興と法・社会」で講義(吉椿)
- 12/14 社会貢献学会(神戸学院大学)の能登半島地震シンポジウムに登壇
(吉椿)
- 1/8 龍谷大学国際 NGO 論で講義(吉椿)
- 1/15 舞子高校「1.17 メモリアル行事」で講演(山村)
- 1/20 関西国際大学「国際防災協力」で講義(吉椿)
- 2/12 関西国際大学アジア留学生へ講演(吉椿)
- 2/14 関西学院大学中村さんヒアリング(吉椿)
- 3/4 神港橋高校タウンミーティングで講演(安福さん、吉椿)
- 3/19-20 日本災害復興学会「からだから被災と復興を語り合う」で講演(吉椿)
- その他の団体・メディアとの連携
- 4/1 PHD 協会田村さん、井上さん来所(吉椿)
- 5/17 MBS ラジオ「ネットワーク 1.17」に出演(南さん、山村)
- 5/18 FM わいわい「街ブラ～人と街とくらしを探る」に出演(山村)
- 5/24 FM 茨木放送で「トルコ・シリア地震」の報告(吉椿)
- 6/7 日経新聞取材(吉椿)
- 6/14 ひょうご安全の日推進県民会議総会に出席(山村)
- 6/20 NPO 法人チュラキューブ取材(吉椿)
- 6/25 兵庫県国際交流協会、ウクライナ避難民のヒアリング(山本さん、島村、
山村、吉椿)
- 7/12 能登半島地震インスタライブ(小池さん、吉椿)
- 7/18 NHK 吉永さん打ち合わせ(吉椿)
- 7/25 グリコユニオン研修会で講演(吉椿)
- 8/6 NHK 取材(吉椿)
- 8/7 読売新聞取材(吉椿)
- 8/14 「復興の灯」キャンドルナイトスカイランタンに参加(島村、山村)
- 9/18-22 お熊甲祭り(七尾市中島町)に参加(玉地さん、岩尾さん、島村、山村、
吉椿)
- 10/1 神戸新聞取材(吉椿)
- 10/7 全国防災関係人口ミーティングで講演(吉椿)
- 10/14 映画「港に灯がともる」試写会に出席(ソフィアさん家族、吉椿)

	<p>10/19 神戸学生青年センター「食料環境セミナー」で講演(吉椿)</p> <p>10/29 文化放送「ゴールデンラジオ」取材(山村)</p> <p>11/23-24 伝承合宿で講演(村井理事) 伝承合宿に参加(玉地さん、安福さん、山村、吉椿)</p> <p>11/27 日本水防災普及センター「水防災セミナー」で講演(吉椿)</p> <p>12/2 大阪ガス「Social+」で講演(吉椿) 神戸市危機管理室震災 30 年事業ヒアリング(山村、吉椿)</p> <p>12/3 能登被災地支援ライブ「水野昌子の落語&朗読」で能登支援の報告(山村)</p> <p>12/4 難民セミナー(アジア福祉教育財団難民事業本部)で 「ウクライナ避難民支援」の講演(吉椿)</p> <p>12/11 難民事業本部関西支部・神戸 YMCA「難民セミナー」で講演(吉椿)</p> <p>12/16 西日本新聞震災 30 年取材(吉椿)</p> <p>12/21 一般社団法人じんせい設計のチャリティーイベントで 能登半島地震支援報告(山村)</p> <p>12/25 ひょうごボランタリープラザ「大規模災害を想定した災害ボランティア 連携訓練」に参加(頼政さん、山村)</p> <p>1/1 MBS ラジオ「ネットワーク 1・17」に出演(南さん、山村)</p> <p>1/6 日経新聞取材(吉椿) MBS ラジオ「月イチジャーナル」に出演(吉椿) 文化放送 ゴールデンラジオの収録(山村)</p> <p>1/12 「阪神・淡路大震災 30 年防災・現在チャリティーイベント ～tsunagu(ツナグ)～」(玉地さん、安福さん、岩尾さん、島村さん、山村)</p> <p>1/16 読売新聞取材(山村)</p> <p>1/17 ひょうご安全の日のつどいでブース出展(島村さん、南さん、山村) チョ・ホンリさん主催被災地座談会で講演(吉椿) 内閣府「防災とボランティアの集い」に参加(吉椿)</p> <p>1/19 日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)シンポジウムに参加 (吉椿)</p> <p>1/24 MBS ラジオ「ネットワーク 1.17」に出演(吉椿)</p> <p>1/28 IRP 国際復興フォーラムに出席(山村、吉椿)</p> <p>2/7 NHK ウクライナ避難民支援の取材(吉椿)</p> <p>2/11 震災がつなぐ全国ネットワーク移動寺子屋に参加(山村、吉椿)</p> <p>2/18 神戸東ロータリークラブで講演(吉椿)</p> <p>2/25 神戸新聞取材(吉椿)</p> <p>2/26 JICA 関西草の根技術協力事業外部審査会に出席(吉椿)</p> <p>3/1 「凧が灯るころに」上映会に出席(島村さん、山村)</p> <p>3/2 令和サバイバー養成キャンプに参加(山村)</p> <p>3/6 JANIC セミナー「国際協力と安全保障の交差点の今、我々が 果たすべき役割は何か」に参加(吉椿)</p> <p>3/8 神戸市危機管理室「RE:KOBE」に登壇(玉地さん)、参加(吉椿)</p>
--	--

	<p>令和サバイバー養成キャンプに参加(山村)</p> <p>3/12 JFN ラジオに出演(吉椿)</p> <p>3/15 FM わいわい出演(玉地さん、岩尾さん、安福さん)</p> <p>3/18 映画「港に灯がともる」上映&トークショーに登壇(吉椿)</p> <p>参加(岩尾さん、安福さん)</p>
--	---

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
実施内容	<p>① フィリピン</p> <p>2013 年 11 月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動する NGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築き、その後もフィリピンでの災害の際はコンタクトを取っている。2020 年からはコロナ禍での生活困窮者を支援する女性たちの動きをサポートし、2021 年度は庭野平和財団の助成金を活用してコロナ禍の女性の活動を支援した。</p> <p>② 中国</p> <p>2008 年の四川大地震以降、つながっている四川の NGO「NGO 備災センター(上厚公益サービスセンター)」、「四川尚明公益発展研究センター」、「杏基金」などとの連携を、2015 年から実施している日中 NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきた。2020 年度は、コロナ禍において、国際アライアンス「IACCR」を先述の NGO と立ち上げ、世界 14 の国と地域のメンバーと情報を共有してきた。</p> <p>③ ネパール</p> <p>2015 年 4 月に発生したネパール地震の救援活動を通じて Gudel Sherpa Community や同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016 年度からは、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村のシャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」や「夢広の会パタンジェ」との関係を構築してきた。</p> <p>④ インドネシア</p> <p>2006 年のインドネシア・ジャワ中部地震以降、連携しているエコ・プラウトさん(デュタ・ワチャナキリスト教大学教授)や彼の建築家のネットワーク(インドネシア建築協会など)を通じて、2010 年の青海省地震や 2018 年のロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波の支援も展開してきた。エコさんも新型コロナ感染症対応の国際アライアンス「IACCR」のメンバーになっている。</p>

	<p>⑤ トルコ</p> <p>2023 年 2 月に発生したトルコ・シリア地震で協働している NGO、ACEV。1999 年のマルマラ海地震の際に通訳をいただいた岩城あすかさんの義弟であるハサンさんが ACEV のコーディネーターを務めている。また、ガジアンテプ市内の NGO のメハメットさん (Active Participants Association メンバー) も女性や子ども支援の NGO のネットワークを持っている。また、ハタイ県でプロジェクトを行っているカウンターパート NGO 「Dayanışma Gönülleri」のセルバイさんや協同組合「Hatay Ronya Sanat」の Cansu さんとのプロジェクトを通じて関係を深めてきた。</p>
--	---

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>CODE 寺子屋は、これまで主に CODE の理事を講師として開催してきたが、2020 年度からは、近畿ろうきんの協賛、関西 NGO 協議会と共催で、外部の NGO の方などを講師として開催してきた。</p> <p>2024 年度は、災害や紛争の多発する時代の課題として、気候変動をテーマとした。第 1 部は、気候変動の専門家、江守正多さん (東京大学未来ビジョン研究センター副センター長・教授) を講師に気候変動の原因や影響、そして人々の意識を変えていく事などを講演いただいた。第 2 部は次世代を担う大学生と江守先生のディスカッションを行った。</p> <p>詳細は以下の通り。</p> <p>◎CODE 寺子屋セミナー2025 * 6-(4)にも再掲</p> <p>「災害多発時代に今一度、気候変動を考える」</p> <p>日 時: 2025 年 2 月 22 日 (土) 13:30-16:00</p> <p>場 所: 近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール</p> <p>講 師: 江守正多さん (東京大学未来ビジョン研究センター副センター長・教授)</p> <p>ディスカッション: 小林杏佳さん (緑の地球ネットワーク元インターン)</p> <p style="padding-left: 40px;">川邊菜帆心さん (関西 NGO 協議会インターン)</p> <p style="padding-left: 40px;">玉地紘樹さん (CODE 海外災害援助市民センターインターン)</p> <p>ファシリテーター: 栗田佳典 (関西 NGO 協議会事務局長)</p> <p>参加者: 約 40 名</p> <p>主 催: CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>共 催: 近畿労働金庫、関西 NGO 協議会</p>

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>2024 年度(2025 年 3 月 31 日時点)の会員の状況:</p> <p>正会員 :28(団体 3、個人 25)</p> <p>賛助会員:123(団体 0、個人 123) 計:151 名・団体</p> <p>*この数年の会員数の推移:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度 109 名・団体 ・2019 年度 144 名・団体 ・2020 年度 128 名・団体 ・2021 年度 120 名・団体 ・2022 年度 151 名・団体 ・2023 年度 150 名・団体 <p>*リーフレットのカラー刷新</p> <p>2019 年度に前スタッフが、JICA の研修で学んだノウハウを生かして、新しいリーフレット案を作成し、岸本元 CODE 理事にご協力いただき新たなデザインを検討していただいたが、未だ実現には至っていない。</p> <p>*ソーシャルアクションリング(バナー広告)</p> <p>2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で、毎年 15000 円の広告費を得ている。</p>

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>*2024 年度は、能登半島地震関係の講演などが多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育機関：神神戸学院大学、親和大学、兵庫県立大学、大阪大学、東京大学、関西学院大学、関西国際大学、龍谷大学、舞子高校、鷹匠中学校、葦合高校、神港橋高校、社会貢献学会、日本災害復興学会など ○組 合：コープこうべ、近畿ろうきん、グリコユニオンなど ○その他：関西 NGO 協議会、JICA 関西、兵庫県国際交流協会、全国防災関係

人口ミートアップ、神戸学生青年センター、大阪ガス、アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部、神戸東ロータリークラブ、NGO-JICA 協議会、日本水防災普及センター、FM わいわいなど

* 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。

◎能登半島地震報告会の開催

日 時:2024年5月26日(日)14:00~17:00

場 所:兵庫県立大学神戸防災キャンパス大教室(オンライン参加あり)

報告者:頼政良太さん(被災地 NGO 協働センター代表)

村井雅清(被災地 NGO 協働センター顧問、CODE 理事)

吉椿雅道(CODE 事務局長)、山村太一(CODE スタッフ)

やさしや足湯隊の学生たち

参加者:約 70 名

主 催:被災地 NGO 協働センター

CODE 海外災害援助市民センター

◎足湯ボランティア交流会の開催

日 時:2024年11月30日(日)14:00~17:00

場 所:こうべまちづくり会館(オンライン配信あり)

報告者:頼政良太さん(被災地 NGO 協働センター代表)

吉椿雅道(CODE 事務局長)

島村優希さん(CODE 学生スタッフ、大阪大学大学院)

南太賀さん(被災地 NGO 協働センター学生スタッフ、兵庫県立大学大学院)

参加者:約 30 名

主 催:被災地 NGO 協働センター

CODE 海外災害援助市民センター

◎CODE インターン発表会

日 時:2025年4月12日(土)14:00~16:00

場 所:こうべまちづくり会館(オンライン参加含む)

発表者:玉地紘樹さん(CODE インターン、神戸学院大学3年生)

岩尾正貴さん(CODE インターン、神戸学院大学3年生)

参加者:29名

主 催:CODE 海外災害援助市民センター

* 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り * 4-(6)にも再掲

4/24 石川県能登半島地震に学ぶ防災フォーラム(おいしい防災塾)で

5/29 兵庫県立大学商科キャンパス「災害支援とボランティア」で講義(山村)

5/31 大阪大学人間科学部「共生社会論特講 1、能登半島地震」で講義(吉椿)

	<p>6/26 大阪大学人間科学部「共生の理論と実践」で講義(吉椿)</p> <p>7/11 葺合高校「総合的な探求の時間」で講義(吉椿)</p> <p>7/19 龍谷大学石原ゼミで「能登半島地震」の講義(吉椿)</p> <p>7/25 グリコユニオン研修会で講演(吉椿)</p> <p>9/6 鷹匠中学校「地域とつながる授業」で講演(吉椿)</p> <p>10/7 全国防災関係人口ミーティングで講演(吉椿)</p> <p>10/19 神戸学生青年センター「食料環境セミナー」で講演(吉椿)</p> <p>11/3 大阪大学で中国防災減災国際交流団へ講演(室崎代表理事、島村さん)</p> <p>11/5 大阪大学で中国防災減災国際交流団へ講演(吉椿、島村さん)</p> <p>11/8-10 日本災害復興学会 2024 度長岡大会に出席(島村さん、山村、吉椿)</p> <p>11/27 日本水防災普及センター「水防災セミナー」で講演(吉椿)</p> <p>11/28 近畿ろうきん姫路支店「会員向け事業報告」で講演(吉椿)</p> <p>11/29 舞子高校「災害と人間」で講義(吉椿)</p> <p>12/2 大阪ガス「Social+」で講演(吉椿)</p> <p>12/4 難民セミナー(アジア福祉教育財団難民事業本部)で 「ウクライナ避難民支援」の講演(吉椿)</p> <p>12/6 コープこうべの関西学院大学社会福祉学部社会起業特論 C で講義(吉椿)</p> <p>12/11 難民事業本部関西支部・神戸 YMCA「難民セミナー」で講演(吉椿)</p> <p>12/12-13 東京大学教養学部「災害復興と法・社会」で講義(吉椿)</p> <p>12/14 社会貢献学会(神戸学院大学)の能登半島地震シンポジウムに登壇 (吉椿)</p> <p>12/21 一般社団法人じんせい設計のチャリティーイベントで 能登半島地震支援報告(山村)</p> <p>1/8 龍谷大学国際 NGO 論で講義(吉椿)</p> <p>1/15 舞子高校「1.17 メモリアル行事」で講演(山村)</p> <p>1/17 チョ・ホンリさん主催被災地座談会で講演(吉椿)</p> <p>1/20 関西国際大学「国際防災協力」で講義(吉椿)</p> <p>2/8 近畿ろうきん震災 30 年企画で講演(吉椿)</p> <p>2/12 関西国際大学アジア留学生へ講演(吉椿)</p> <p>3/4 神港橋高校タウンミーティングで講演(安福さん、吉椿)</p> <p>3/8 神戸市危機管理室「RE:KOBE」に登壇(玉地さん)</p> <p>3/19-20 日本災害復興学会「からだから被災と復興を語り合う」で講演(吉椿)</p>
--	---

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定	機関誌は全国各地へ約 1400 通発送 インターネットは不特定多数

人数	
実施内容	<p>現在、CODE の情報発信は、HP、メーリングリストに加え、SNS を活用した広報として Twitter や Facebook、インスタグラムを活用している。</p> <p>2020 年度に真如苑の基盤強化の助成金を活用して、ホームページの刷新を船曳桃子さんのご協力で行った。</p> <p>* 2021 年 8 月にアフガニスタンの政変が起きたことにより、現地の人たちに迷惑がかからないように CODE の HP のアフガニスタンのページを現在も閉鎖している。また、FB でも過去のアフガニスタンの記事の個人名、地域、写真をイニシャル変更、削除することで対応した。</p> <p>* CODE レターの発送状況</p> <p>2016 年度 9 月発行の Vol.56 より機関誌「CODE レター」をカラー化し、年間 3 回発行してきた。</p> <p>2023 年度は、トルコ・シリア地震があった事で、会員以外の寄付者にも CODE レターは発送している事から、発送数は以下の通り増加している。</p> <p>Vol.71(2023/4/21 発行)は、1382 部発送 Vol.72(2023/9/11 発行)は、1376 部発送 Vol.73(2023/12/20 発行)は、1419 部発送 Vol.74(2023/4/24 発行)は、1425 部発送 Vol.75(2024/7/31 発行)は、1431 部発送 Vol.76(2024/12/27 発行)は、1437 部発送</p> <p>* SNS の状況</p> <p>スタッフの山村や学生スタッフの島村さんがインスタグラムを活用して CODE の活動を若者向けに丁寧に発信してくれたことで各 SNS のフォロワーが増加している。</p> <p>・FaceBook</p> <p>CODE の FaceBook に「いいね」をした人は、1895 人(2024 年度末) (2015 年度末は 648 人、2016 年度末は 1125 人、2017 年度末 1295 人、 2018 年度末 1407 人、2019 年度末 1484 人、2020 年度末 1540 人、 2021 年度末 1581 人)、2022 年度末 1795 人、2023 年度末 1850 人</p> <p>・FaceBook のフォロワー:2126 人(2024 年年度末) (2020 年度末 1616 人、2021 年度末 1680 人、2022 年度末 1967 人 2023 年度末 2052 人)</p> <p>・Twitter のフォロワー:651 人(2024 年度末) (2020 年度 512 人、2021 年度 512 人、2022 年 818 人、2023 年度末 654 人)</p> <p>・インスタグラムのフォロワー:1093 人(2024 年度末) (2020 年度末 628 人、2021 年度末 747 人、2022 年度末 818 人、 2023 年度末 1008 人)</p>

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備 * 名称を「組織基盤の強化に関して」に変更
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>2019 年度より本格的に認定 NPO 法人の取得に向けて動き出し、会計に関しても今中一壽一税理士(ひまわり会計事務所)にご協力いただき、これまでの会計処理を修正し、認定取得に向けて、市民活動センター神戸(認定 NPO 法人相談窓口事業を神戸市から受託している団体)や神戸市などと協議を行ってきた。また、榛木理事とも認定 NPO 法人を取得した 2 団体(テラルネッサンス、アクセス)を訪問し、ヒアリングを行った。</p> <p>2023 年度は、これまで CODE の会計業務や認定 NPO 法人取得に尽力していただいた今中一壽さん(ひまわり税理士事務所)から沖村朝之さん(沖村税理士事務所)に引継ぎ、沖村税理士は毎月数回事務所を訪問いただき、会計だけでなく、認定 NPO 法人取得に向けて就業規則や給与規定などの書類の整備なども作成いただいている</p> <p>また、通常の理事会・総会の開催のほか、事務所移転に向けて事務局スタッフで以下の通り、複数回にわたり物件を探してきたが、2024 年 1 月の能登半島地震対応のために事務所移転を延期している状態である。</p> <p>2024 年度は、能登半島地震・豪雨の対応に追われ、事務所移転に向けた物件探しができなかった。</p> <p>また、2019 年から理事を務めていただいた西海恵都子理事(神戸新聞常務取締役)が業務多忙の理由から退任することとなった。代わりに同じく神戸新聞論説委員の岸本達也さんに理事に就任いただくこととなった。</p> <p>また、堀之内(成安)有希理事も育児による多忙などの理由で退任することとなった。</p> <p>*2024 年度の理事会・総会の開催の状況</p> <p>4/25 CODE4 月度理事会 6/16 CODE6 月度理事会・2024 年度総会 9/26 CODE9 月度理事会 12/24 CODE12 月度理事会 2025/2/26 CODE2 月度理事会</p> <p>* 2024 年度の主な動き:</p> <p>2025/2/27 アーユス 2024 年度 NGO 大賞授賞式に出席(村井理事)</p>